

土地分類基本調査

上石見・新見・油木

5万分の1

国土調査

広島県

1997

はじめに

限りある国土を有効に利用するためには、その土地の属性を科学的方法で調査し、統一的に把握することが何より必要です。

こうした観点から、県は、昭和51年度から国土調査法に基づく土地分類基本調査を実施していますが、平成7年度は5万分の1地形図「上石見」、 「新見」及び「油木」図幅の調査を実施しました。これがその成果です。

この調査の実施に当たってご協力をいただいた関係者各位に対し深く謝意を表するとともに、この報告書が今後、土地情報の基礎資料として各種計画等の企画立案に当たって広く活用されることを願います。

平成9年3月

広島県県民生活部長 土 井 一 彦

【参考：平成7年度までに調査した図幅】

昭和51年度	「海田市」
昭和52年度	「庄原」、 「大竹」
昭和53年度	「広島」、 「津田」
昭和54年度	「乃美」、 「鞆島」
昭和55年度	「府中」
昭和56年度	「尾道」、 「土生」
昭和57年度	「可部」
昭和58年度	「竹原」
昭和59年度	「呉」
昭和60年度	「福山・魚島」
昭和61年度	「加計」
昭和62年度	「井原」
昭和63年度	「三津・今治西部」
平成元年度	「木津賀・三段峡」
平成2年度	「上下」
平成3年度	「大朝」
平成4年度	「八重」
平成5年度	「赤名・上布野」
平成6年度	「頓原・多里」
平成7年度	「上石見・新見・油木」

目 次

まえがき

総 論

I 位置及び行政区画	1
1 位 置	1
2 行政区画	1
3 面 積	1
II 地域の特性	3
1 地 勢	3
2 気 候	3
3 土地利用の概要	4
4 人口・世帯数	6
5 交 通	7
III 主要産業の概要	8
1 農 業	9
2 林 業	11
3 商 工 業	12
IV 開発の現況と方向	13

各 論

I 地形分類図	15
II 表層地質図	25
III 土 壌 図	34
IV 水系及び谷密度図	54
V 傾斜区分図	58
VI 土地利用現況図	59

ま え が き

- 1 この調査は、広島県が事業主体であり、広島県土地分類基本調査研究会の協力を得て行ったものである。
- 2 この調査は、自然条件のうち土地の基本的性格を形成している地形、表層地質、土壌の3要素を基礎とし、これに傾斜区分、水系・谷密度、土地利用現況を加味し、その結果を相互に有機的に組み合わせることによって土地利用の可能性を科学的に分類するものである。
- 3 この調査結果は、国土調査法施行令第2条第1項第4の3の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿である。
- 4 この調査成果の作成機関及び担当者は、次のとおりである。

調査成果の作成機関及び担当者

指 導	国土庁土地局国土調査課		
総 括	広島県県民生活部土地対策課	課 長	小早川 徳 宏
		課長補佐	藤 尾 晃
		主査(兼)国土調査課長	藤 川 和 博
		主 任	杉 田 信 之
地形調査	広島経済大学経済学部	教 授	藤 原 健 藏
	東京都立大学理学部	教 授	堀 信 行
	山口大学教育学部	助 教 授	前 柰 英 明
表層地質調査	広島県土地分類基本調査研究会		
土壌調査	広島県立農業技術センター	環境研究部長	井 本 征 史
		総括研究員	小 松 武 治
		主任研究員	中 藪 正 之
		主任研究員	宮 地 勝 正
		主任研究員	松 浦 謙 吉
		主任研究員	谷 本 俊 明
	広島県立林業試験場	育種開発部長	水 野 邦 彦

		主任研究員	升原 一 介
		研究員	涌嶋 智
水系・谷密度調査	広島経済大学	教授	藤原 健藏
	東京都立大学理学部	教授	堀 信行
	山口大学教育学部	助教授	前 奎英明
	東京都立大学大学院		室 伏多門
傾斜区分調査	広島経済大学経済学部	教授	藤原 健藏
	東京都立大学理学部	教授	堀 信行
	山口大学教育学部	助教授	前 奎英明
	広島大学大学院文学研究科		細 矢卓志
土地利用現況調査	広島県立農業技術センター	環境研究部長	井 本 征史
		総括研究員	小 松 武治
		主任研究員	中 藪 正之
		主任研究員	宮 地 勝正
		主任研究員	松 浦 謙吉
		主任研究員	谷 本 俊明
	広島県林務部林政課	補佐(兼)森林計画係長	吉 田 昌時
		技 師	角 谷 弘美

總論

I 位置及び行政区画

1 位置

この図幅は、広島県の東北端部に位置し、経緯度は、東経 $133^{\circ}15'$ ～ $133^{\circ}30'$ 、北緯 $34^{\circ}40'$ ～ $35^{\circ}10'$ で、図幅の南側およそ半分を広島県域が占めており、その面積は、 342.18km^2 である。

2 行政区画

この図幅内には、豊松村の全域と、神石郡三和町、東城町の一部及び福山市、油木町のごく一部が含まれている。

3 面積

この図幅内の市町村面積は、福山市 11.03km^2 、油木町 92.63km^2 、神石町 1.09km^2 、豊松村 52.35km^2 、神石郡三和町 56.64km^2 、東城町 128.44km^2 である。

図-1 行政区画図

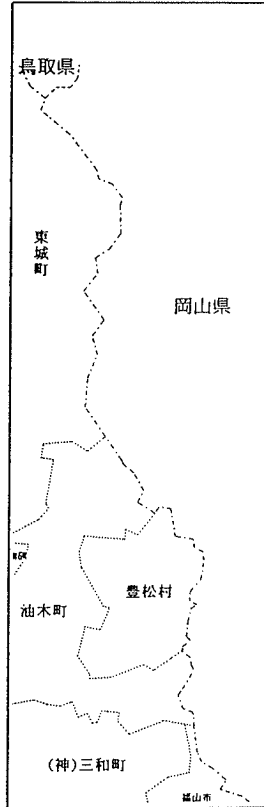


表-1 町村別面積

(単位: km², %)

町 村	図 幅 内 面 積		町 村 面 積 (B)	(A/B)×100
	実 数(A)	構 成 比		
福 山 市	11.03	3.2	364.47	3.0
油 木 町	92.63	27.1	98.02	94.5
神 石 町	1.09	0.3	104.14	1.0
豊 松 村	52.35	15.3	52.35	100.0
(神)三和町	56.64	16.6	127.46	44.4
東 城 町	128.44	37.5	304.91	42.1
合 計	342.18	100.0	1,051.35	32.5

資料：建設省国土地理院「平成7年度全国都道府県市区町村別面積調」（平成7年10月1日現在）

(注)：図幅内面積は、5万分の1地形図からプランメーターにより計測したものである。

なお、福山市及び神石町については、図幅内の面積が狭小なため、以下の記述は省略する。

II 地域 の 特 性

1 地 勢

この図幅は、県東端部に位置し、図幅の北部から中部にかけて、中国山地比婆山山系の一部が含まれ、三国山、古頃山、多飯が辻など1000mを超える山々が連なっている。

また、図幅の中部から南部にかけては、神石高原山地に含まれる高度600m～800mの山が所々に分布している。

水系は、大部分が岡山県西部の瀬戸内海に注ぐ高梁川水系成羽川・東城川・小田川の流域にあたり、図幅南部の一部に、福山平野に注ぐ芦田川水系がかかる。

2 気 候

広島県の気候は、中国山地気候区、山陽気候区、瀬戸内気候区、中国西部気候区の4気候区に分類される。

この地域は、中国山地気候区に属し、年平均気温は11°C前後、年降水量は1,200mm程度となっている。

表－2 月別気象状況

(単位：°C, mm)

平成7年 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平成7年 全体
最高 気温	油木 12.3	9.2	15.6	20.6	24.6	26.7	32.4	32.3	28.2	24.5	16.2	9.8	32.4
最低 気温	油木 Δ8.3	Δ8.8	Δ6.8	Δ6.0	1.4	5.0	14.9	15.3	5.2	0.0	Δ4.0	Δ10.8	Δ10.8
平均 気温	油木 Δ0.2	0.2	4.2	8.9	13.7	16.8	23.0	24.2	17.4	12.5	4.7	0.6	13.6
降 水量	油木 37	17	57	101	250	75	393	46	111	91	45	13	1236

資料：広島地方気象台「広島県気象年報」（平成7年）

3 土地利用の概要

土地利用の概要を地目別にみると、表－3のとおり、行政区域全面積の82.1%が森林で、農地7.2%、宅地0.8%、雑種地0.4%、その他9.5%となっている。

図幅内町村の土地利用の割合は、地形上の特性から、森林の面積が県全体の72.8%に比べ高く、農地は県全体に比べかなり低くなっており、宅地は県全体に比べ著しく低くなっている。

表-3 土地利用の概要

(単位: ha, %)

町 村	総面積	宅 地	農 地			森 林	雑種地	その他
			田	畑	合 計			
油 木 町	9,802 (100.0)	71 (0.7)	368 (3.8)	296 (3.0)	664 (6.8)	7,702 (78.6)	25 (0.3)	1,340 (13.6)
豊 松 村	5,235 (100.0)	32 (0.6)	257 (4.9)	236 (4.5)	493 (9.4)	4,146 (79.2)	14 (0.3)	550 (10.5)
神石郡三和町	12,746 (100.0)	120 (0.9)	693 (5.4)	299 (2.4)	992 (7.8)	10,437 (81.9)	82 (0.6)	1,115 (8.8)
東 城 町	30,491 (100.0)	249 (0.8)	1,650 (5.4)	402 (1.3)	2,052 (6.7)	25,529 (83.7)	92 (0.3)	517 (8.5)
合 計	58,274 (100.0)	472 (0.8)	2,968 (5.1)	1,233 (2.1)	4,201 (7.2)	47,814 (82.1)	213 (0.4)	5,574 (9.5)
県 計	847,476 (100.0)	31,706 (3.7)	51,100 (6.0)	20,600 (2.5)	71,700 (8.5)	617,022 (72.8)	18,423 (2.2)	108,625 (12.8)

- 資料: 1 総面積: 建設省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(平成7年10月1日現在)
- 2 宅 地: 自治省「平成7年固定資産の価格等の概要調査報告書」(平成7年1月1日現在)
- 3 農 地: 中国四国農政局広島統計情報事務所「広島農林水産統計年報」(平成6年~7年)
- 4 森 林: 「広島県林務部行政資料」(平成8年3月)
- 5 雑種地: 2の宅地と同じ。
- 6 その他: 総面積から、宅地、農地、森林、雑種地を除いたもの。

(注): () 内は、構成比。

4 人口・世帯数

この図幅内町村の人口は、表-4のとおり、平成7年10月1日現在21,246人で、平成2年に比べ1,212人、5.4%減少している。

東城町の5.8%をはじめ、全町村の人口が減少している。

世帯数は、平成2年と比べ、ほぼ横ばいである。

表-4 人口・世帯数

(単位：世帯，人，%)

町 村	平成2年(A)		平成7年(B)		増減率(B/A-1)×100	
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口
油木町	1,166	3,593	1,134	3,434	Δ2.7	Δ4.4
豊松村	590	2,088	586	1,959	Δ0.7	Δ9.4
神石郡三和町	1,448	4,956	1,445	4,712	Δ0.2	Δ4.9
東城町	3,758	11,821	3,784	11,141	0.7	Δ5.8
合計	6,962	22,458	6,969	21,246	0.0	Δ5.4

資料：「国勢調査報告」（平成2年，平成7年）

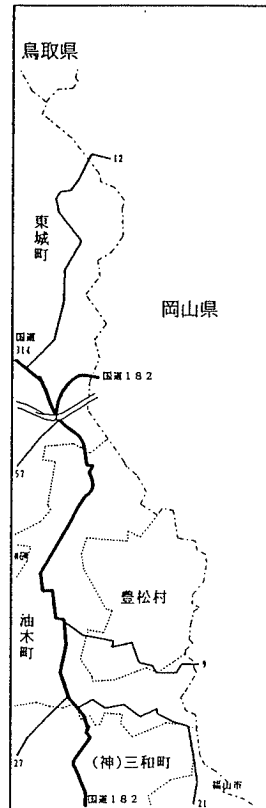
5 交 通

この図幅内の主要交通施設を見ると、鉄道は、JR芸備線が新見図幅中央部を東西に走っている。

道路は、高速道路の中国自動車道が、JR芸備線と平行して東西に走る。また南北方向には、国道182号線が図幅中央部を真っすぐ北上し、東城町に入った後はJR芸備線に平行して走り岡山県に抜ける。

このほか、主要地方道や一般県道が走り、大規模林道等も整備されつつある。

図-2 主要交通施設



Ⅲ 主要産業の概要

この図幅内の町村別、産業別就業人口は、表-5のとおりである。総数は、平成7年10月1日現在12,439人で、産業別にみると、第1次産業が3,940人で31.7%、第2次産業が3,661人で29.4%、第3次産業が4,835人で38.9%となっている。

この地域は、第1次産業の就業人口比率が県全体の5.7%を大きく上回るのに対し、第3次産業では、県全体の61.9%を大きく下回っている。

表-5 産業別就業人口

(単位：人，%)

町 村	総 数	第1次産業		第2次産業		第3次産業	
			うち農業		うち製造業		うち卸売小売業等
油 木 町	2,067 (100.0)	778 (37.6)	769	545 (26.4)	292	743 (35.9)	221
豊 松 村	1,237 (100.0)	507 (41.0)	502	381 (30.8)	221	349 (28.2)	123
神石郡三和町	2,777 (100.0)	868 (31.3)	833	810 (29.2)	484	1,099 (39.6)	283
東 城 町	6,358 (100.0)	1,787 (28.1)	1,724	1,925 (30.3)	1,172	2,644 (41.6)	946
合 計	12,439 (100.0)	3,940 (31.7)	3,828	3,661 (29.4)	2,169	4,835 (38.9)	1,573
県 計	1,472,610 (100.0)	83,251 (5.7)	76,152	469,216 (31.9)	4,799	911,549 (61.9)	45,556

資料：「国勢調査報告」（平成7年）

(注)：()内は、構成比。総数には、分類不能の産業を含む。

1 農 業

図幅内の町村の総農家数は3,923戸で、専兼別の割合では、県全体に比べ専業農家がやや低くなっており、第1種兼業農家の割合が非常に高くなっている。

農業粗生産額は表-7のとおりで、畜産の割合が全体の61.8%と最も高く、次に米が26.8%となっている。一方、野菜と果実は合わせて6.4%であり、県全体の27.3%に比べて非常に低い割合になっている。

表-6 専兼業別農家数

(単位：戸，%)

町 村	総 農 家 数	専 業 農 家	第1種兼業農家	第2種兼業農家
油 木 町	733 (100.0)	165 (22.5)	129 (17.6)	439 (59.9)
豊 松 村	447 (100.0)	59 (13.2)	140 (31.3)	248 (55.5)
神石郡三和町	970 (100.0)	159 (16.4)	106 (10.9)	705 (72.7)
東 城 町	1,773 (100.0)	319 (18.0)	224 (12.6)	1,230 (69.4)
合 計	3,923 (100.0)	702 (17.9)	599 (15.3)	2,622 (66.8)
県 計	102,936 (100.0)	19,989 (19.4)	6,031 (5.9)	76,916 (74.7)

資料：農林水産省「1990年世界農林業センサス」

(注)：()内は、構成比。

表-7 農業粗生産額（平成6年）

（単位：100万円，％）

町 村	農業粗生産額	う ち 米	うち野菜	うち果実	うち畜産
油 木 町	738 (100.0)	330 (44.7)	85 (11.5)	23 (3.1)	142 (19.2)
豊 松 村	603 (100.0)	218 (36.1)	186 (30.8)	7 (1.2)	94 (15.6)
神石郡三和町	2,052 (100.0)	642 (31.3)	86 (4.2)	8 (0.4)	1,217 (59.3)
東 城 町	7,516 (100.0)	1,732 (23.0)	171 (2.8)	140 (1.9)	5,289 (70.4)
合 計	10,909 (100.0)	2,922 (26.8)	528 (4.8)	178 (1.6)	6,742 (61.8)
県 計	137,649 (100.0)	54,763 (39.8)	21,214 (15.4)	16,332 (11.9)	34,468 (25.0)

資料：中国四国農政局広島統計情報事務所「広島農林水産統計年報」（平成6年～7年）

（注）：（ ）内は，構成比。

2 林 業

この図幅内の町村の民有林面積は44,880haで、蓄積量は5,070千㎡である。

天然林は、大部分が広葉樹とマツで占められているのに対し、人工林は、大部分がスギとヒノキである。

表－8 森林面積等

(単位：ha, 1,000㎡, %)

町 村	民有林面積	蓄 積 量	人工林面積	人 工 林 率	国有林面積
油 木 町	7,009	671	1,938	70.0	693
豊 松 村	3,970	334	1,335	33.6	176
神 石 郡 三 和 町	8,662	1,074	1,897	21.9	1,775
東 城 町	25,239	2,991	10,877	43.1	290
合 計	44,880	5,070	16,047	35.8	2,934

資料：「広島県林務部行政資料」（平成8年3月）

3 商 工 業

この図幅内の町村の商業は、小規模な小売業がほとんどで、自動車社会の進展に伴い、自町内での購買が減少し、後継者の確保が深刻な状況となっている。

工業についても、零細企業のみで、農村地域工業等導入促進法による企業導入等も行われているが、工業は発展していない。(東城町の図幅外を除く。)

表-9 商工業の概要

(単位：所，人，100万円，%)

町 村	商 業 (平成6年)			工 業 (平成6年)		
	商店数	従業者数	年間商品販売額	事業所数	従業者数	製造品出荷額等
油 木 町	73 (16.0)	212 (14.5)	2,828 (12.0)	17 (15.3)	173 (9.2)	955 (4.5)
豊 松 村	45 (9.9)	106 (7.3)	1,608 (6.8)	14 (12.6)	169 (9.0)	894 (4.2)
神石郡三和町	94 (20.6)	268 (18.4)	4,296 (18.2)	33 (29.7)	308 (16.4)	2,824 (13.4)
東 城 町	244 (53.5)	872 (59.8)	14,923 (63.0)	47 (42.4)	1,225 (65.4)	16,440 (77.9)
合 計	456 (100.0)	1,458 (100.0)	23,655 (100.0)	111 (100.0)	1,875 (100.0)	21,113 (100.0)
県 計			14,850, 577	8,797	264,998	7,982,162

資料：広島県企画振興部統計課「平成6年商業統計調査結果報告」(平成7年8月)

〃 「平成6年工業統計調査結果報告」(平成7年12月)

- (注)：1 商業は、卸売業・小売業。
 2 工業は、従業者4人以上の事業所。
 3 ()内は、構成比。

IV 開発の現況と方向

この地域は、広島県の東端部に位置し、過疎化、住民の高齢化が進み、全域が過疎地域活性化特別措置法に基づく過疎地域に指定されている。

また、図幅内全域が、山村振興法に基づく振興山村に指定されている。

この地域の開発動向をみると、商工業関係では、大規模なものはない。

農業関係では、農地は、ほとんどが谷沿いに位置し、県営、団体営ほ場整備事業などにより整備されつつあるが、面積は狭小である。全体的には、水稻の生産が主であるが、豊松村のトマトなどが冷涼な気候を活用した特産品として生産されている。また、この地域は、古くから和牛の生産が盛んで、かなりの比率の粗生産額をあげている。一部では、農用地造成が行われ、野菜が生産されている。

林業関係では、この地域は、優良林業地域として積極的に造林が進められ、人工造林率は県平均を大きく上回っている。

観光面では、比婆道後帝釈国定公園や、仙養が原などを図幅内に含み、自然景観に恵まれた地域であり、キャンプ場やハイキングなどの施設が整備されている。

また、北端部においては積雪が多いことから、スキー場が設置されており、冬季間は多くの入込み客がある。

今後は、道路網の整備により、観光面で入込み客の増加が予想されるが、自然と調和した開発が期待される。

各 論

I 地形分類図

1 地形の概要

本地域は広島県東端部に位置し、中国山地比婆山山系道後山山地の一部及び世羅・神石高原山地の神石高原山地を含んでいる。山地の高度は、図幅北部の岡山・鳥取県境付近では1000mを越える山々が連なっている。高田流紋岩からなる三国山（1130m）、古頃山（1159m）など広島県北部に分布する高山が含まれている。また、中北部の山地には多飯が辻（1040m）などの花崗閃緑岩からなる山々が分布し、図幅中部から南部では山地高度は600～800mの玄武岩が山頂部に載る円錐状の形態を持つ山が所々に分布している。本図幅の大部分は、岡山県西部の瀬戸内海に注ぐ高梁川水系成羽川・東城川・小田川などの流域にあたり、その本流や支流は岡山県の高梁市に集まり他の支流と合流した後、倉敷市でさらに小田川と合流する。図幅南部の一部に福山平野に注ぐ芦田川水系の流域がかかり、三和町亀石付近がその分水界にあたる。

中国地方の山地地形の特徴は、山頂部や山腹の尾根に侵食小起伏面と呼ばれる平坦面が発達していることである。本図幅は背梁山地の一部と吉備高原中部にあたり、高度500～700mのところここのような侵食平坦面がよく発達している。本地域南部には、標高600～700mに発達する吉備高原面（豊松面）がよく分布している。また、中部地域にはこれよりやや標高が低い（450～550m）吉備高原面（油木面）が分布している。これらの侵食小起伏面は定高性が極めてよく、台地状の平坦な侵食面とそれを取り巻く急峻な開析谷壁で構成されている。侵食小起伏面は山頂部や尾根のみでなく、高位の谷底として残されている場合がある。図幅全般にわたって、標高約400～600mの高度に、面積は狭いながら、浅く谷壁の傾斜が緩やかな谷が分布している。これらの谷は、前輪廻の侵食基準面に規定されて形成されたものと推定される。このような平坦面は、ほぼ中国地方全域に分布する3段に大別される侵食小起伏面（高位面、中位面、低位面）のうち、中位面の吉備高原面に対比されている。中位面は第三紀中新世以降形成された侵食面である。

狭義の谷底平野（沖積平野）は、東城町中心部付近や内堀付近など比較的規模の大きい高梁川の支流沿いに最大幅0.6km程度でわずかに発達し、ほとんどの支流沿いには平野と認定できるほどの低地は分布せず、山地斜面が直接河床に

接している場合が多い。また、側方からの支流の出口には、小規模な沖積錐が発達している場合がある。これらの沖積錐は、地形や堆積物の特徴から過去の土石流によって形成されたものと推定され、大河川が山間部から平野に流れ出てくる場所に形成される扇状地とは形成過程が異なるものである。また、東城盆地の周りや小田川に沿う地域には、砂礫層からなる数段の河成段丘が発達している。

本地域に分布する地形の特徴として、石灰岩台地が挙げられる。図幅中央部の東城町の南部には、飛田野呂や宇山野呂という地名がついた台地が分布している。これらの台地は古生界（中国北帯古生層）の石灰岩からなるカルスト台地であり、台地上には石灰岩地形の特徴の一つであるドリーネと呼ばれるすり鉢状の凹地が発達している。このカルスト台地の高度は概ね450-550mであり、吉備高原面（油木面）の発達高度に一致している。

本地域は、広島市の都心部から隔たった位置にあるため、宅地開発などによる大規模な地形の人工改変はほとんどない。多飯が辻山周辺と図幅南部の時安付近には崩壊地形が分布している。また、豊松村の仙養山周辺には地滑り地形が集中して発達している。これは、第三紀層である半固結堆積物の備北層群の上に玄武岩類がキャップロックとなって載っているために発生する、いわゆる第三紀層地滑り地にあたる。本地域は地滑り等防止法に基づいた直轄地滑り対策事業に指定されており、農林水産省中国四国農政局が改良事業にあっている。

2 各地形区の特徴

1 山地

1 a 三国山山地

本山地は図幅北端に位置し、標高1125mの三国山を中心とした中起伏の山地である。三国山は、広島県・鳥取県・岡山県の3県の県境をなす。山地の南端には高梁川水系の小足谷川が流れる。河谷中には小規模な谷底平野が発達している。古頃山山頂付近には地滑り性崩壊によって生じたと思われる馬蹄形の崖地形が見られる。三国山より北側には蛇紋岩分布域がみられる。

1 b 寺ヶ成山山地

本山地は図幅北部に位置し、標高922.5mの寺ヶ成山を中心とする中起伏山地がその主体をなす。山地の東端には高梁川水系支流の頭地川が流れる。寺ヶ成山北面には小崩壊によって生じたと思われるガリー状の地形がみられる。寺ヶ

成山北側には、山地斜面下部に、上部急斜面と明瞭な傾斜変換線がある麓屑性山麓緩斜面がある。本山地の大部分は高田流紋岩からなっている。

l c 多飯が辻山地

本山地は図幅北部に位置し、標高1040.3mの多飯が辻山を中心とする中起伏山地がその主体をなす。北部の内堀低地に続く山麓や東部の虫原山西麓には上部急斜面と明瞭な傾斜変換線がある麓屑性山麓緩斜面が分布している。多飯が辻山山頂周辺には地滑り性の崩壊地形や線状の崩壊地形が多数分布している。本山地は花崗閃緑岩からなっている。

l d 朝倉山山地

本山地は図幅中北部に位置し、標高777.9mの朝倉山を中心とする小起伏山地である。本山地は中央に南流する粟田川が形成する谷底平野によって東西に分断されている。本山地の北部は蛇紋岩からなっているが、南部は黒雲母花崗岩からなる。

l e 焚火山山地

本山地は図幅中部に位置し、焚火山（622.0m）を中心とする中～小起伏山地である。本山地は東城低地を取り囲むように分布しており、中央を高梁川水系東城川が南東に流れる。東城盆地に山間から流れ出る小河川の出口には小規模な沖積錐が発達している。

l f 新免山地

本山地は図幅中南部に位置し、油木町新免付近に分布する小起伏山地である。高梁川水系支流の成羽川と福橋川にはさまれた本山地は石灰岩台地に隣接し、極めて平坦な侵食小起伏面が発達する。本山地の地質は主として安山岩質岩石（吉舎安山岩）からなっている。

l g 権現山山地

本山地は図幅中央部に位置し、広島・岡山県境の権現山（694m）を中心とする小起伏山地である。本山地の地質は主として流紋岩からなっているが、権現山や猪辻山の山頂部には第三紀の火成活動による玄武岩がメサ状に載っている。侵食小起伏面の発達がよく、平坦な侵食面を成羽川が深く刻み峡谷を形成している。

l h 油木山地

本山地は、図幅中南部に位置し、油木町の中心部のまわりに分布する小起伏山地である。山地の西側は福橋川に限られ、東側には天田川が北流する。山容

は極めておだやかで侵食小起伏面状の地形を呈しているが、北部の新免山地や権現山山地に比べやや起伏が大きい。このため侵食小起伏面としての図示はしていない。本山地の地質は古生代石炭紀の泥岩や砂岩などの堆積岩からなる。

l i 宗兼山地

本山地は図幅中南部に位置し、山地の東側は北流する天田川に限られている。本山地の標高は600m前後であるが、細谷川沿い以外には谷底平野はほとんど発達していない。本山地の古生代石炭紀の泥岩や砂岩及びチャートなどの堆積岩からなる。また谷あいには新第三紀の備北層群が分布している。宗兼には地滑り地形も見られる。

l j 米見山山地

本山地は図幅中南部に位置し、米見山(670m)を中心とする小起伏山地である。本山地の地質は主として吉舎安山岩からなっているが、米見山には第三紀の火成活動による玄武岩がメサ状に載っている。山地の東部は成羽川の支流である仁吾川が作る細長い谷底平野によって限られている。また、山地の西部は天田川が形成する渓谷によって限られている。山地中には侵食面上に残る高位の谷底平野が標高500m前後のところに分布している。

l k 豊松山地

本山地は図幅中東部、豊松村東部の岡山県境部に分布する小起伏山地である。安山岩、流紋岩からなる本山地は一部中粗粒の斑れい岩類が分布する。山地の西側を仁吾川によって限られている。また日野山には、第三紀の火成活動による玄武岩がメサ状に載っており、山麓には新第三紀の備北層群が分布している。

l l 安田山地

本山地は、図幅南西部に位置する小起伏山地である。東側は北流する安田川、南部は小田川に限られている。緩やかな起伏の本山地は標高が600-700m程度であり、侵食小起伏面としては吉備高原面のうち豊松面に相当すると考えられる。本図幅内南部の小起伏山地はほとんどの地域に侵食小起伏面状地形が分布する。すべてを図示すれば図が煩雑になり他の地形要素が見えにくくなるため、侵食小起伏面が特によく発達しているところのみを図示した。山地の基盤岩石は主に流紋岩である。

l m 仙養山山地

本山地は図幅南部に位置し、仙養山(742.2m)を中心に、標高600-700mの小起伏山地である。本山地の地質は主として第三紀の火成活動による玄武岩が

中心をなすが、その周辺部は古生代石炭紀のチャートなどの堆積岩からなる。また、谷あいには新第三紀の備北層群が分布している。仙養山周辺は硬い玄武岩が半固結の備北層群の上に載っていることから、地滑りが数多く発生するいわゆる第三紀層地滑り地帯である。国の直轄地滑り対策事業にも指定されており、地滑り対策工事が集中的に行われている。

Ⅰ n 時安山地

本山地は図幅南端部に位置し、三和町時安を中心とする小起伏山地である。山地のほぼ中央部に倉敷に注ぐ高梁川水系小田川と、福山に注ぐ芦田川水系の分水界がある。山地の北部と東側は小田川が刻む峡谷によって境されている。北部の谷中には狭いながら河成段丘が認められ、過去に侵食基準面の変化によって河床レベルが変遷したことが窺える。本山地の地質は北部は高田流紋岩、南西部は古生代二畳紀の泥岩層（舞鶴層群）からなっている。中央部は新第三紀の備北層群が分布している。東部の久留美付近は流紋岩分布域であるが、小規模な山地崩壊が集中的に見られる。

Ⅰ o 上野山地

本山地は図幅南東端部にあたり、広島・岡山の県境部に分布する小起伏の山地である。本山地の地質は中央部は高田流紋岩、北部と南部は古生層からなっている。県境部にはところどころに玄武岩が分布する。小田川の東側には侵食小起伏面が高度500-600mに極めてよく発達している。これは分布高度から吉備高原面油木面に相当すると考えられる。

Ⅱ 丘陵地

Ⅱ a 千鳥丘陵地

図幅北部の寺ヶ成山山地と多飯が辻山山地の間にある本丘陵地は、起伏量が比較的大きい丘陵地Ⅰに分類される。本丘陵地は風化した細粒黒雲母花崗岩からなり、北側に迫る流紋岩からなる寺ヶ成山と好対照の地形を呈し、明瞭な傾斜変換線によって隔てられている。丘陵の標高はおおよそ700m以下である。

Ⅱ b 竹森丘陵地

多飯が辻山山地の西部に位置する本丘陵地の大部分は中粗粒角閃石黒雲母花崗閃緑岩からなる。丘陵の標高はおおよそ600-650mで、丘陵地は小～中起伏の山地によって囲まれている。多飯が辻山山地との間には明瞭な傾斜変換線が存在する。

II c 東城丘陵地

図幅中部に位置する本丘陵地は、東城盆地の西部と南部を限る形で発達している。比較的起伏量が大きい丘陵地 I に相当する。丘陵の標高は350-400mで、小～中起伏の山地に囲まれている。花崗岩からなる本丘陵地は、新第三紀の備北層群からなる北部山地とはきわめて対照的ななだらかな地形を呈している。

III 台地

III a 宇山台地

本台地は図幅中部の東城盆地の南側に位置している。本台地を構成する地質は古生代石炭紀の石灰岩(中国北帯古生層)からなり、典型的な石灰岩台地(カルスト台地)である。台地上には石灰岩地形に特有なドリネと呼ばれるすり鉢状の凹地が多数分布している。台地の高度は500-550mであり、吉備高原面油木面と同等な発達高度である。本台地の周辺は急崖で限られている。

IV 低地

IV a 内堀低地

図幅北西部に位置する本低地は高梁川水系の流域であり、多里・庄原図幅に連続する内堀低地の東部にあたる。標高は600m程度の高度に、やや斜面堆積物をかぶって傾斜した河成段丘が発達する。

IV b 東城低地

図幅中部に位置する本低地は、山間を流れる成羽川沿いに発達する最大幅1.0 km程度の小規模な盆地である。盆地の中心には東城町の中心集落があり、県東北部の中心地としての機能を果たしている。低地中には河成段丘が比較的良好に発達しており、山麓には沖積錐が分布している。標高は300m程度の本低地は周囲を第三系の備北層群や古生代石炭紀の泥質岩(中国北帯古生層)からなる丘陵地・山地によって囲まれている。

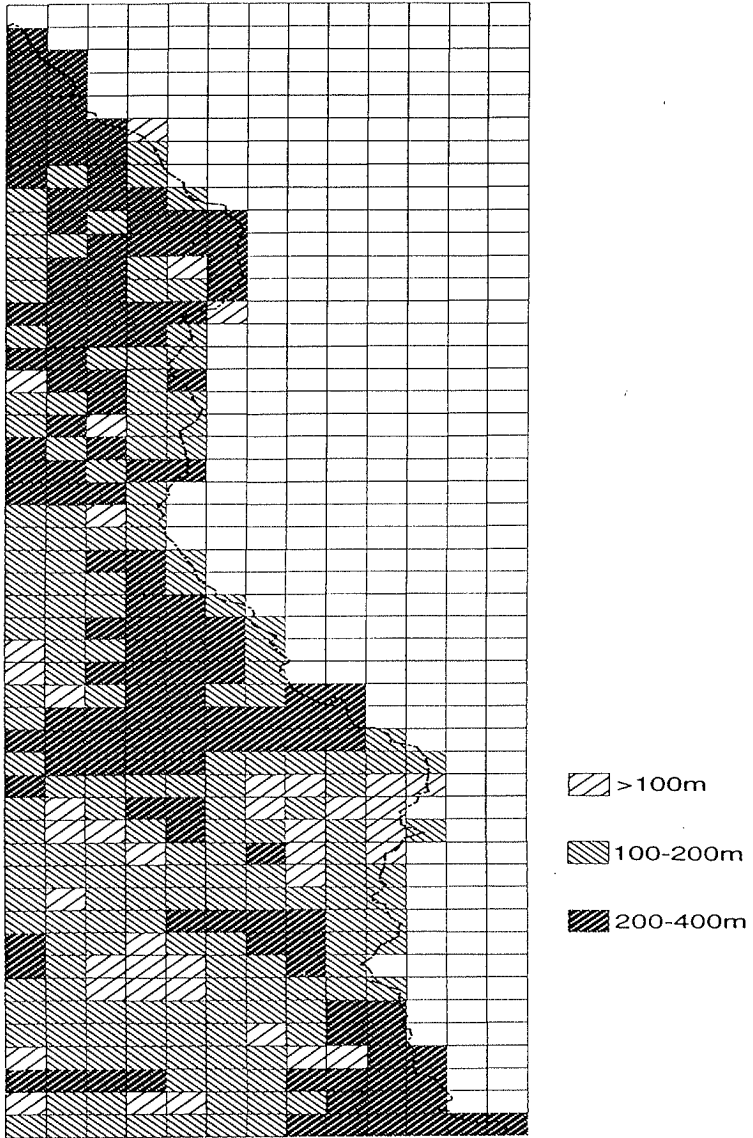


図-3 上石見・新見・油木図幅の起伏量メッシュ

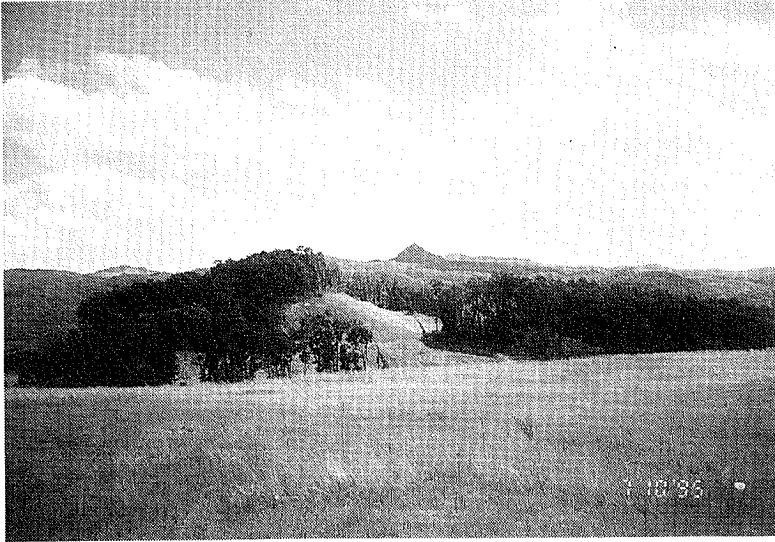


写真1 東城町飛田野呂付近から南側の権現山方面を望む

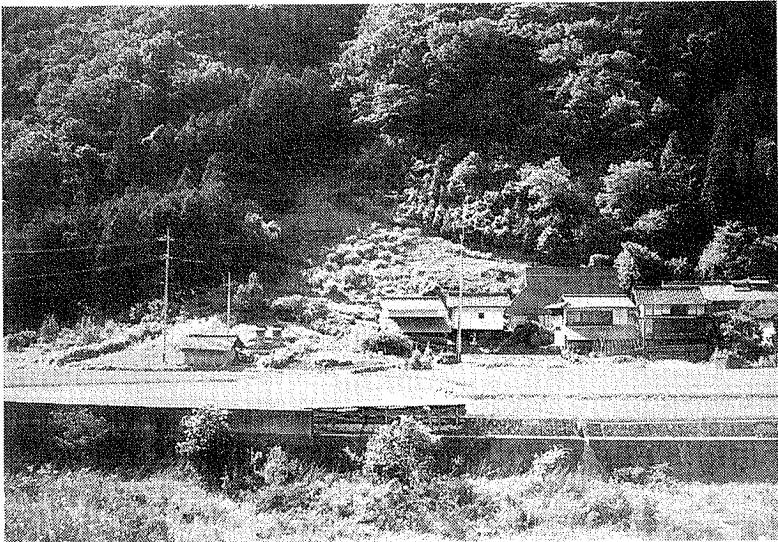


写真2 三和町小田川流域に発達する小規模沖積錐

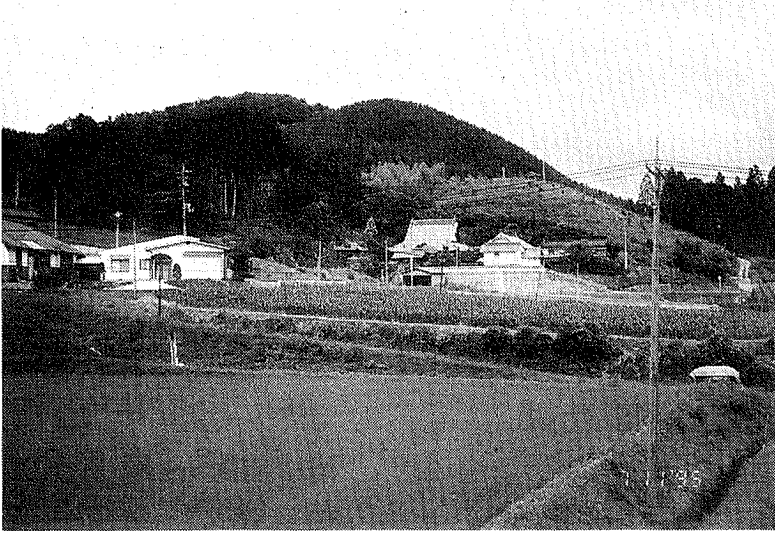


写真3 豊松村米見山の地形

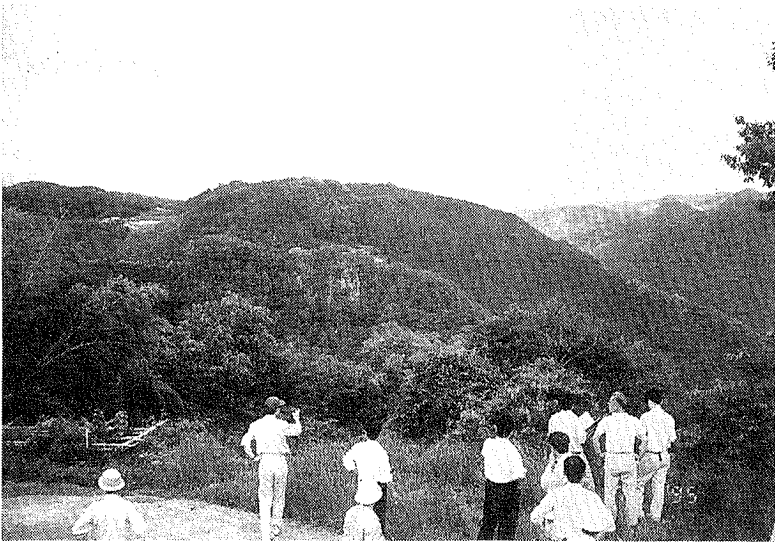


写真4 油木町小野の侵食小起伏面上から成羽川の溪谷を望む

参考文献

- 今村外治ほか編（1984）：日本地方地質誌．中国地方．朝倉書店．
木野崎吉郎ほか（1963）：広島県地質図．広島県．
鷹村 権（1979）：日曜の地学．広島の地質をめぐって．築地書館．
地質調査所（1991）：日本地質図体系．中国・四国地方．朝倉書店．
藤原健藏（1980）：中国地方の侵食小起伏面研究の諸問題．西村嘉助先生退官
記念地理学論文集．159-164．
藤原健藏（1977）：地形特性とその形成過程．「広島県史一地誌編」．広島県．
13-38

広島経済大学	藤 原 健 藏
東京都立大学理学部	堀 信 行
山口大学教育学部	前 杢 英 明

II 表層地質図

1 表層地質の概要

本地域（上石見・新見・油木図幅の広島県域部分）を構成する主たる地質系統は、石炭紀～ペルム紀の付加体と考えられる非変成古生層（中国帯および舞鶴帯）を基盤とし、これを覆う白亜紀火山岩類およびこれに貫入した白亜紀深成岩類である。これら中・古生代の地質が古第三紀の長い期間に侵食削平化された後、その低所に中新世海進による備北層群の堆積をみた。その後、本地域はふたたび侵食削平化されたため、備北層群も大部分が失われて断片的に残っているに過ぎない。地域南部には、中新世後期の玄武岩ドームが数多く点在する。

本地域に分布する表層地質は、おおよそ次に通りである。以下では記載の便宜上、上石見図幅の範囲を北部地域、新見図幅を中部地域、油木図幅を南部地域として記す。また、従来は古生層の地帯名称として“北帯”“中帯”を用いていたが、最近の用例に従ってそれぞれ“中国帯”および“舞鶴帯”とした。

未固結堆積物：現河川の谷底に分布する沖積層と段丘堆積物であり、シルト・砂・砂礫などの河川堆積物からなる。成羽川・小田川など吉備高原を深く開折して流れる河川と、高原上を流れる前輪廻の緩流河川とでは、谷底の沖積層は性状・厚さなどの点で大きな違いがある。本地域では河岸段丘の発達は貧弱であり、成羽川の東城町付近、小田川の三和町に小規模に形成されているにすぎない。

半固結堆積物：広島県の北部から東部にかけて中新世備北層群が広く分布する。岡山県側では、勝田層群と呼ばれている。十分に固結していないため、大型土木機械によって容易に切り崩すことが可能である。泥層・シルト層からなる上部層と砂層・礫層からなる下部層に分けられるが、本地域には下部層に属する砂礫層が卓越する。なお、南部の油木・豊松・三和3町村に分布する、従来、鮮新～更新世の山砂利層とされてきた砂礫層については、最新資料（地質調査所20万分の1地質図『高梁』）に依拠して備北層群に含めた。

固結堆積物：時代の異なる四つに堆積岩層、すなわち中生代白亜紀前期の硯石層群、三疊紀後期の成羽層群、古生代ペルム紀の黒色片状岩・緑色片状岩（舞鶴帯）、石炭紀～ペルム紀の泥質岩・チャート・石灰岩（中国帯）が分布する。中国帯古生層の分布は帝釈台の石灰岩質岩石を中心に、北は東城町から南は油木町まで、比較的広い範囲にわたって認められるが、舞鶴帯古生層は最南部の三和町・福山市山野付近のごく狭い範囲に分布する（ただし、東隣の岡山県域には広く分布する）。中生層の硯石層群は、南部地域を中心に北はJR芸備線付近まで、中国帯古生層（石灰岩）を不整合に覆い、吉舎安山岩岩類に被覆されて分布する。

表-10 表層地質の一覧

地質時代		地質系統	表層地質区分		
新生代	第四紀	沖積層	砂・粘土・礫	(Uscg)	未固結堆積物
		段丘堆積物	砂・シルト・礫	(Ussg)	
	第三紀	玄武岩	玄武岩質岩石	(Ba)	火山性岩石
		新第三紀層(備北層群など)	砂岩・礫岩	(Ssc)	半固結堆積物
中生代	白亜紀	花崗岩	花崗岩質岩石(中-粗粒黒雲母花崗岩)	(Gr)	深成岩
		花崗斑岩	斑岩質岩石(細粒黒雲母花崗岩)	(Qp)	
		花崗閃緑岩	閃緑岩質岩石	(Dr)	
		斑れい岩	斑れい岩質岩石	(Gb)	
	流紋岩(高田流紋岩類など)	流紋岩質岩石(溶岩・溶結凝灰岩)	(Ry)	火山性岩石	
安山岩(吉舎安山岩類など)	安山岩質岩石(溶岩・火砕岩)	(An)			
(白亜紀/三疊紀)	中生層(硯石層群/成羽層群)	凝灰岩・泥質岩・砂質岩・礫質岩	(Trc)	固結堆積物	
古生代	ヘルム紀	古生層(舞鶴帯)	黒色片状岩(泥岩・砂岩)	(Phm)	固結堆積物
			緑色片状岩(波久野岩類を含む)	(Phb)	
	ヘルム紀 ～石炭紀	結晶片岩(中国帯)	泥質片岩(砂質片岩を含む)	(Psch)	変成岩
		古生層(中国帯)	泥質岩・砂質岩	(Pr)	固結堆積物
			チャート	(Ch)	
石灰岩			(Li)		
輝緑凝灰岩質岩石(石灰岩・チャートを伴う)	(Bt)				
先石炭紀	蛇紋岩	蛇紋岩質岩石(超塩基性岩類)	(Sp)	変成岩	

火山性岩石：白亜紀中期に噴出した吉舎安山岩類および高田流紋岩類がある。前者は豊松村から油木町北部をへて東城町南部に及ぶ比較的広い範囲に分布する。これに対して、後者の分布は3カ所に分かれ、南部では三和町一帯に、中部では油木町の東北部（成羽川の左岸）に分布する。北部では東城町北部の寺ヶ成山一帯の標高900～1100mの山地を構成する。豊松村を中心とする吉備高原の上には、中新世後期に噴出したアルカリ玄武岩が点々と分布する。中・古生代の基盤岩類を基底にするケースもあるが、中新世備北層群の上のケースも多く、その場合は玄武岩がキャップロックとなって備北層群を比較的広い範囲にわたって残している。

深成岩類：中生代白亜紀中・後期（一部は古第三紀）の深成岩類で、貫入の時期は一般に斑れい岩（ないし石英閃緑岩）→花崗閃緑岩→黒雲母花崗岩・花崗斑岩の順とされる。これらの大部分は東城町北部に分布し、中国山地脊梁部（中起伏山地）を構成している。なお、先石炭紀の超塩基性岩類と併存する斑れい岩も認められる。

変成岩類：本地域の東に隣接する岡山県中部には、中国帯古生層が三疊紀の変成作用を受けた三郡変成帯が広く分布している。本地域の南東部（福山市山野）には、その南西延長（泥質片岩）が岡山県美星町から延びて分布するが、きわめて小面積である。

2 表層地質の細説

I 未固結堆積物（Unconsolidated sediments）

I a 砂・粘土・礫（Uscg）（沖積層）

沖積層は、現河川の谷底平野に分布するシルト・砂・砂礫などの河川堆積物である。本地域の谷底平野を大別すると、吉備高原面を深く開析して流れる成羽川・小田川など中規模河川の峡谷型谷底と、高原上を流れる前輪廻の緩流河川の盆谷型谷底の二つがある。成羽川本流筋の沖積層は、砂礫を主体とする粗粒の堆積物であり、厚さは通常数mに過ぎないが、石灰岩地域では河床底が溶食されて10m以上の厚さのところが多い。高原面上の緩流河川の盆谷（表層地質図では主要なもののみを示す。詳細は地形分類図を参照）の一部では、備北層群の基底礫から再堆積した砂礫を観察できるが、一般にシルト・粘土など細粒堆積物が卓越し、厚さも数mを超えることはない。

I b 砂・シルト・礫（Ussg）（段丘堆積物）

東城町域の成羽川本流の谷底には、小規模・断片的に段丘堆積物が分布する。主として砂・礫からなり、厚さは数m未満、風化は進んでいない。備北層群が

分布する栗田川などの支流では、備北層群由来の砂礫を多く含む。上流の花崗岩質・閃緑岩質岩石の地域では、背後の山麓緩斜面から押し出した碎屑物、砂鉄採取の鉄穴流しによって流し出された砂質物など、場所による違いが激しい。

II 半固結堆積物 (Semiconsolidated sediments)

II a 砂岩・礫岩 (Ssc) (備北層群下部層)

広島県北部に分布する中新世海進期に堆積した備北層群は、礫岩・砂岩からなる下部層と砂岩・泥岩が卓越する上部層に分けられるが、本地域に分布するのはほとんどが下部層である。その分布状況を現在の地形との関係でみると、ほぼ三つに分けられる。すなわち、①東城町を中心に成羽川本・支流の河谷両側に分布し、基盤岩類からなる周囲の高原面より一段低い丘陵を構成する、層厚150mを越す礫卓越の砂岩・礫岩層、②油木町・三和町など高原上に分布し、基盤岩類とともに高原面の一部を構成する、層厚数10mの砂岩・礫岩層、③堆積場所および層相は②とほぼ同じであるが、仙養山・日野山などの玄武岩ドームに保護されて、比較的高い標高まで厚く残っている泥岩・砂岩・礫岩層である。

III 固結堆積物 (Consolidated sediments)

III a 凝灰岩・泥質岩・砂質岩・礫質岩 (Trc) (硯石層群・成羽層群)

白亜紀前期の硯石層群の分布は豊松村南部、油木町南部、東城町東部に分かれるが、ほぼ同じ岩相を示す湖成堆積物である。石灰岩を不整合に覆う下部層(厚さ50~120m)は、数cm大の石灰岩・砂岩・頁岩・チャートの亜角礫からなる礫岩層と酸化鉄で赤色化した凝灰岩層との互層である。上部層は赤色ないし雑色の頁岩・凝灰岩であり、塊状ないし剥離状を呈する。下部層とほぼ同程度の厚さをもつ。剥離性に富む頁岩層からはエステリア(カイエビ類)の化石が発見されている。

三畳紀後期の成羽層群は礫岩・粗粒砂岩を主とし、その分布は福山市島串の小田川河谷内に限られる。主分布地は岡山県大賀であり、そこでは炭質頁岩ないし粗悪な炭層を挟む。北側の古生層に衝上され、南側の三郡変成岩(泥質片岩)に衝上する。

III b 緑色片状岩 (Phb)、黒色片状岩 (Phm) (舞鶴帯古生層)

地域最南部の三和町および福山市山野地区の2カ所に、北側の中国帯古生層(石灰岩)に衝上されて分布する。本来は東西に連続していたが、白亜紀噴出の高田流紋岩類に覆われて分断されている。大部分の泥質岩と少量の砂質岩か

らなる海溝性タービタイト（乱泥流堆積物）を原岩とし、弱い変成作用を受けた片状岩であることを特徴とする。したがって、岩相の側方変化が激しい。地図では、緑色岩（輝緑岩および輝緑凝灰岩）が卓越する緑色片状岩と、泥質岩を主とし、一部で少量の砂質岩・チャート質岩を伴う黒色片状岩の二つに分けて示してある。

Ⅲc 泥質岩・砂質岩（Pr）（中国帯古生層）

帝釈石灰岩台地の南側（油木町の中西部）および北側（東城町の中中部）に広く分布する。帝釈石灰岩がテーブル型サンゴ礁として形成されたペルム紀に、その周縁海域に堆積した泥質岩（頁岩）、砂岩、石灰岩礫を含む砂質岩の互層である。

東城町の街の北方、焚火山一帯ではチャートと珪質頁岩となっている（野旅山層）。一方、油木町中・西部の岩体は仙養山付近をへて南東にのび、岡山県大賀台南西部の芳井まで分布する（芳井層群）。ここではペルム紀後期の黒色頁岩、砂岩・頁岩互層からなり、石灰岩礫を伴う。

Ⅲd チャート（Ch）（中国帯古生層）

上記Ⅲcの野旅山層および芳井層群の中に挟在するチャートで、侵食に対する抵抗性があるため、高原面上にひととき高い岩体となっている。前述の焚火山のほか、油木町南方の権現山、仙養山北斜面などがその例である。

Ⅲe 石灰岩（Li）・輝緑凝灰質岩石（Bt）（中国帯古生層）

石灰岩（帝釈石灰岩）は東城町南部の宇山野呂・飛田野呂などのカルスト台地を構成して広く分布し、その南方の油木町北部および神石町東部にも、白亜紀火山岩類に覆われて点在する。ペルム紀前期にテーブル型サンゴ礁として形成された石灰岩（宇山層・有頭層）で、白色または灰白色、塊状のものが多いが、所によっては層理をもつ礫質、黒色に近いものもある。上野谷付近では結晶質の白色石灰岩である。宇山野路の東端（為重谷の北）には、帝釈石灰岩の最下部層の一部（石炭紀猪谷山層）である輝緑凝灰質の碎屑性石灰岩が分布する。チャートを伴い、多種の小型有孔虫化石を含む。

三和町北部の小畠・重松などに、小型有孔虫やフズリナの化石を含む石炭紀の石灰岩が点々と分布する。南側のペルム紀緑色片状岩に衝上し、北側の高田流紋岩類に覆われている。

IV 火山性岩石 (Volcanic rocks)

IVa 玄武岩質岩石 (Ba) (旧期玄武岩)

中新世後期に基盤岩類または備北層群の上に噴出したアルカリ玄武岩であり、分布は東城・油木境の権現山・猪辻山、豊松村の米見山・日野山、豊松・油木境の仙養山など、その数は多い。一般に黒色または暗灰色の緻密岩であり、肉眼でも鮎色色の橄欖石斑晶が認められる。かつては地表上に出現したドーム火山と言われたが、マグマの通路で冷却した岩体が侵食に耐えて残丘化した場合が多いとされる。ただし仙養山やその東方の花済では、チャートや備北層群を比較的広範囲に覆ってメサ状の平頂峰を形成している。厚さは150m前後で、表土は“くろほこ”と呼ばれる黒色土壌となっている。

IVb 流紋岩質岩石 (Ry) (高田流紋岩類)

南部では三和町の井関・時安地区に、中部では油木町東北部の小野地区に、それぞれ標高600m前後の吉備高原面を構成して比較的広く分布する。大部分は流紋岩質の火砕岩類(凝灰角礫岩・凝灰岩)からなり、溶岩は少ない。高原上の平坦部では風化作用によってかなり厚くカオリン化している。一方、東城町の北部では標高900~1100mの山地を構成しており、その表成部分または花崗岩類の貫入により接触変成した部分は、堅牢緻密化している(岡山県側で確認されている)。

IVc 安山岩質岩石 (An) (吉舎安山岩類)

西では帝釈石灰岩の東南部分を被覆し、東では白亜紀前期の硯石層群を被覆して油木町北部および豊松村の中・北部の広い範囲に分布する。成羽川の峡谷の北では高田流紋岩類によって被覆されている。大部分が安山岩質凝灰岩・凝灰角礫岩・集塊岩などの火砕岩類からなり、溶岩は少ない。一般に緑色ないし赤褐色の岩石で、部分的に石英安山岩質の火砕岩を挟む。風化変質が著しい。

V 深成岩 (Plutonic rocks)

Va 花崗岩質岩石 (Gr)

中一粗粒の黒雲母花崗岩および角閃石黒雲母花崗岩である。東城町野呂から栗田川の東まで、低起伏山地を構成して分布する。全体として風化作用を受けやすく、深層風化部分にはかつて行われた砂鉄採取による地形改変の跡が残っている。また三和町時安には、高田流紋岩類に貫入した極めて小さな岩体が点在する。

V b 斑岩質岩石 (Qp)

東城町小奴可の耳木谷山(多里図幅)から東へのび、東城町の千鳥・小串に細長く分布する花崗斑岩である。細粒の石基の中に斑点状の大きな斑晶を有し、また細粒角閃石黒雲母花崗岩の性質も示す。北側の高田流紋岩類に貫入したもので、その接触部を熱変成によりホルンフェルス化している。花崗斑岩自体は風化侵食されやすく、流紋岩山地の低い山麓地形となっている。

V c 閃緑岩質岩石 (Dr)

南北両側の花崗岩質岩石に挟まれて分布し、多飯が辻山やその周辺の野田大山・水池山のようにドーム状の特徴的な山体を構成している。粗粒完晶質の黒っぽい角閃石花崗閃緑岩が主体をなすが、場所によって石英を多く含む石英閃緑岩も散見できる。ドーム状山体は岡山・鳥取県境に多くみられ、山体中央部は閃緑岩質岩石と分象花崗岩質岩石の混合岩体であることが知られている。道後山の山頂付近および広島・岡山・鳥取3県境の古頃山は、閃緑岩質の岩株状岩体である。

V d 斑れい岩質岩石 (Gb)

白亜紀および先白亜紀に生成した二つがあるが、いずれも分布範囲が狭いため、本図では一括して示した。前者は、上記の閃緑岩質岩石および花崗岩質岩石に先行して比較的浅いところに貫入した岩株状岩体であり、個々の分布範囲は狭い。最北部の道後山(多里図幅)では黒っぽい輝石斑れい岩であるが、豊松村の岡山県境の岩体は石英を多く含む角閃石石英斑れい岩である。

先白亜紀の斑れい岩類には、舞鶴帯の夜久野岩類および中国帯の三郡変成岩の中の変斑れい岩と呼ばれるもの、蛇紋岩に伴われるものがある。夜久野岩類は、岡山県吉井町からの延長が福山市山野に達しているが、その分布はきわめて限定的である。東城町小串の東方、虫原山一帯を構成する小規模岩体は、角閃石輝石斑れい岩であり、岡山県側において蛇紋岩体と接している。

VI 変成岩 (Metamorphic rocks)

VI a 結晶片岩質岩石 (Psch)

三畳紀の変成とみられる中国帯の弱変成結晶片岩である。岡山県中部が主分布地であるが、その南西延長が芳井町をへて福山市田原付近まで延びている。一般に片状で、変成鉱物としてパンペリー石、アクチノ閃石の生成が認められる。南側に分布する低変成の緑色片状岩・黒色片状岩(舞鶴帯)とは衝上関係を示す。

VI b 蛇紋岩質岩石 (Sp)

最北部の道後山南東斜面および三国山を構成する。多里一三坂岩体と呼ばれる超塩基性岩類の中の橄欖石や輝石が変質した塊状の複合岩体であり、光沢のある緑がかかった部分が蛇紋岩、黒色部分が蛇紋岩化された橄欖岩である。前述した斑れい岩と併存する場合が多い。

3 その他

I 断層

本地域には、東北東一西南西および北西一南東の方向をもつ断層がある。いずれも先白亜系の構造を特徴づけるものである。白亜紀火山岩類との関係については、それをきる場合ときらない場合が報告されており、必ずしも明確でない。断層線上に玄武岩ドームが形成されている例もある。また、東城町における備北層群の分布パターンは、その堆積前に2系統の断層線谷(断層線沿いの侵食谷)が卓越していたことを示唆する。

II 斜面崩壊等、地質に関連する災害

土石流危険渓流が東城町に10数カ所指定されているが、表層地質からみて特に注意すべき個所は花崗岩地域の栗田川流域の3渓流である。成羽川および小田川の深い溪谷においては、場所の特定はできないが、落石等の危険はある。

III 応用地質

III a 鉱床

かつては地域北部において、風化花崗岩からの砂鉄採取が行われていたが、現在、稼行中の金属鉱山はない。本地域を含む帝釈石灰岩地域では、東城町上野谷・宮原等の7個所でカンカル用の石灰岩が採掘されているが、採掘量はあまり多くない。

III b 温泉及び鉱泉

単純弱放射能冷鉱泉に属する東城温泉および三和温泉があるが、いずれも宿泊施設等はない。

謝辞：本図作成の調査に際しては、東城町・油木町・豊松村・三和町より関係資料の提供を受けた。また、図作成に当たっては、広島県地質図(1964)作成における1/50,000原図(広島県県民生活部)を参考資料として使用した。関係各位に対して感謝の意を表します。

参 考 文 献

- 広島県（1964）：広島県地質図（20万分の1）及び説明書
岡山県（1963）：岡山県地質図（20万分の1）及び説明書
建設省中国地方建設局（1984）：中国地方土木地質図（20万分の1）及び解説書
通商産業省地質調査所（1996）：20万分の1地質図『高梁』
猪木幸男ほか（1987）：『日本の地質：中国地方』 共立出版
氏家良博（1976）：「広島・岡山両県の北部に分布する中新統備北層群の堆積環境について」『地質学雑誌』82-1

Ⅲ 土 壤 図

土壤概説

1 山地及び丘陵地の土壤（林地土壤）

「上石見」「新見」「油木」の三図幅には広島県東部の福山市，神石郡油木町，神石町，豊松村，三和町，比婆郡東城町が含まれる。

本地域は鳥取・岡山両県と県境を接し，北部には三国山，古頃山等の道後山に連なる標高1100m級の花々があり，中国山地の脊梁部の一部を形成している。本図幅の中部および南部では標高500～600m程度の平坦な吉備高原面を東城川，成羽川，小田川などの高梁川水系の支流が蛇行しながら侵食し，さらに小さな支流が平坦面を細かく分断しているため，極めて複雑な地形を形成している。

また，平坦面と河床の高度差は時には300mに達し，侵食された部分は急峻な地形となっている。本図幅内の水系は大部分が高梁川水系に属するが，三和町の一部は芦田川水系に含まれている。

林地の植生は北部から中部にかけてコナラ・クヌギ等の広葉樹林が大部分を占めており，南部ではアカマツ・クリ等が多く出現する。本図幅の北部は降水量が比較的多く，土壤も肥沃なため，スギ・ヒノキの造林地が多い。図幅の中部から南部では平坦地や斜面の一部に小面積のスギ・ヒノキの造林地が散見されるが，大規模な造林地は見られない。

本図幅内に出現する林地土壤は4土壤群，41土壤統である（表-11）。その分布の特徴は次のとおりである。

- (1) 火山灰を母材とする黒ボク土が上石見図幅全域の平坦な山頂や尾根，谷沿いの緩凹部に広い面積にわたって分布している。また，新見図幅，油木図幅の谷沿いの凹部においても散見される。
- (2) 黒ボク土以外の所では褐色森林土が大部分を占めているが，その母材となる地質の分布は複雑で種類も多い。出現する地質は花崗岩類，流紋岩類，安山岩類，硯石層，カンラン岩・蛇紋岩類，玄武岩類，チャート・古生層，石灰岩，備北層群である。土色も黄褐色系から赤褐色系，赤色土まで幅広く出現する。したがって，褐色森林土の分布も極めて複雑である。
- (3) 乾性褐色森林土の出現割合は北部では低く，山地の尾根部において小面積出現する。一方，南部では乾性の出現割合が高くなり，山地の尾根部のほか，斜面や平坦地の一部で出現する。

(4) 砂鉄採取によって表層土壌が失われた「カンナ流し」跡地が東城町，油木町，豊松村において散見され，一部でほとんど土壌化の進んでいない砂質の未熟土壌が出現するが，現在ではその多くの部分で植生が回復し，土壌層位の分化も見られる。

(5) 湿性褐色森林土が油木図幅の急峻な谷筋において小面積出現する。

表-11 山地，丘陵地の土地分類表

土 壤 群	土 壤 亜 群	土 壤 統 群	土 壤 統	記 号	地 質・母 材	地 形
—	—	岩 石 地	槌 山 統	Tuc	—	—
未 熟 土	残 積 性 未 熟 土	粗 粒 残 積 性 未 熟 土 壌	小 奴 可 統	Onu	—	丘 陵 地
黒ボク土	黒ボク土	厚 層 黒 ボ ク 土 壌	大 屋 統	Oya	火 山 灰	—
		黒ボク土壌	七塚原統	Nan	火 山 灰	—
褐 色 森 林 土	乾 性 褐 色 森 林 土	乾性褐色 森林土壌	大目黒山1統	Oku-1	花崗岩類	山 地
			川北1統	Kwa-1	流紋岩類	山 地
			田鋤1統	Tas-1	安山岩類	山 地
			庄原1統	Sho-1	第三・四紀層	山 地
			始終1統	Sis-1	古生層	山 地
			帝釈1統	Tai-1	石灰岩	山 地
	褐 色 森 林 土	(赤褐色)	大目黒山2統	Oku-2	花崗岩類	山 地
			双三1統	Fut-1	流紋岩類	山 地
			小国1統	Ogu-1	安山岩類	山 地
			尾道統	Ono	第三・四紀層	丘 陵 地
			豊栄1統	Toy-1	古生層	山 地
			帝釈2統	Tai-2	石灰岩	山 地
	褐 色 森 林 土	(黄褐色)	横谷1統	Yko-1	花崗岩類	山 地
			撫臼山1統	Nad-1	流紋岩類	山 地
			檜村1統	Hin-1	安山岩類	山 地
敷地1統			Shk-1	第三・四紀層	丘 陵 地	
宇根山1統			Une-1	古生層	山 地	
林 土	森 褐 林 色 土 壌	大目黒山3統	Oku-3	花崗岩類	山 地	
		川北2統	Kwa-2	流紋岩類	山 地	
		田鋤2統	Tas-1	安山岩類	山 地	
		神石1統	Jin-1	硯石層	山 地	

土 壤 群	土 壤 亜 群	土 壤 統 群	土 壤 統	記 号	地 質・母 材	地 形
赤黄色土	褐色		白滝山 2 統	Shr-2	蛇紋岩類	山 地
			始終 2 統	Sis-2	古 生 層	山 地
			帝 積 3 統	Tas-3	石 灰 岩	山 地
			横山統	Yok	玄 武 岩	山 地
	森林	(赤褐色)	世羅 2 統	Ser-2	花崗岩類	山 地
			小国 2 統	Ogu-2	安山岩類	山 地
			神石 2 統	Jin-2	硯 石 層	山 地
			羅漢山 2 統	Rak-2	蛇紋岩類	山 地
			始終 3 統	Sis-3	古 生 層	山 地
	土	(黄褐色)	横谷 2 統	Yko-2	花崗岩類	山 地
			撫臼山 3 統	Nad-3	流紋岩類	山 地
			檜村 3 統	Hin-3	安山岩類	山 地
			敷地 2 統	Shk-2	新・旧層	丘陵地
			宇根山 3 統	Une-3	古 生 層	山 地
	赤黄色土	赤色土	森林土壌	大 佐 統	Oka	全 地 質

2 台地、低地地域の土壌（農地土壌）

本図幅内には流紋岩、花崗岩、火山灰あるいは石灰岩などに由来する土性が主に強粘～粘質の土壌が分布する。出現する土壌群は黒ボク土、多湿黒ボク土、黒ボクグライ土、褐色森林土、灰色台地土、グライ台地土、黄色土、灰色低地土およびグライ土の9土壌群である。分布は地質、地形の影響を受けて複雑であるが、概略は本図幅の北部には火山灰に由来する強粘～粘質土壌の分布が広く、本図幅の中部から南部かけては土性が強粘～粘質のグライ台地土が広く分布している。

分布する土壌の種類は9土壌群、19土壌統群、33土壌統である。

表-12 台地、低地地域の土壌分類一覧

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統
黒 ボ ク 土	厚層多腐植質黒ボク土	畑 谷 統
	表層多腐植質黒ボク土	藤 沢 統

土 壌 群	土 壌 統 群	土 壌 統
黒ボク土	表層腐植質黒ボク土	俵坂統 大川口統 飯館統
	厚層腐植質多湿黒ボク土	深井沢統 高松統
多湿黒ボク土	表層腐植質多湿黒ボク土	三輪統 鹿畑統
	腐植質黒ボクグライ土	岩屋谷統 藤間統
黒ボクグライ土	腐植質黒ボクグライ土	岩屋谷統 藤間統
褐色森林土	細粒褐色森林土	貝原統 上統
灰色台地土	細粒灰色台地土	小向統 江迎統 喜久田統
グライ台地土	細粒グライ台地土	吉井統 滝川統 橋本統
黄色土	細粒黄色土	大原統
	細粒黄色土, 斑紋あり	北多久統 新野統
	中粗粒黄色土, 斑紋あり	都志見統
灰色低地土	細粒灰色低地土, 灰色系	藤代統
	中粗粒灰色低地土, 灰色系	加茂統
	礫質灰色低地土, 灰色系	久世田統 追子野木統 国領統
	中粗粒灰色低地土, 灰褐色系	安来統
	礫質灰色低地土, 灰褐色系	松本統 栢山統
グライ土	細粒強グライ土	西山統
	細粒グライ土	保倉統

土壌細説

1 山地及び丘陵地域の土壌（林地土壌）

(1) 岩石地

槌山統 (Tuc)

露岩が地域の50%以上を占める山地の部分である。本図幅では福山市田原、東城町久代、桜尾、神石町日南原、油木町油木、小野、豊松村枇杷谷などの急峻な尾根や崖部において小面積出現する。経済的利用はできず、現植生を極力保護する必要がある。

(2) 残積性未熟土壌

ア 粗粒残積性未熟土壌

小奴可統 (0nu)

主として花崗岩類を基岩とする地帯の山地斜面の下部において、砂鉄採取のために人為的に土砂を掘削したいわゆる「カンナ流し」の跡を見いだすことができる。現在ではカンナ流し跡地においてその多くの部分では植生も回復し、土壌化も進み、層位の分化がみられるが、一部ではほとんど土壌化の進んでいない砂質の未熟土壌が出現する。このような土壌ではA層は無く、腐植の乏しいB層から砂質のC層へと判変する。下層は礫に富む。東城町小串、千鳥、大金等において小面積出現する。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹が生育しているが成長は不良である。

(3) 黒ボク土

ア 厚層黒ボク土

大屋統 (0ya)

黒色土層が50cm以上の黒色火山灰土で、主として二次堆積性である。本図幅では東城町内堀、塩原、竹森、宇山野呂、飛田野呂、油木町仙養ヶ原などの平坦な丘陵地や窪地・谷筋において広く出現する。腐植に頗る富むA層を有し、黒色のA層からB層へ漸変する。丘陵地などでは下層に腐朽浮石層を伴う場合が多い。A層の土性は微砂質壤土で軟らかい。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹が生育し、その成長は良好である。スギ・ヒノキの造林に適している。

イ 黒ボク土

七塚原統 (Nan)

黒色土層が50cm以下の黒色火山灰土である。図幅全域の平坦な山頂や窪地、傾斜の緩やかな谷筋において出現する。腐植に頗る富むA層からB、C層に判、漸変する。丘陵地などでは下層に腐朽浮石層を伴うことがある。また、斜面の上部から流出してきた褐色森林土などの土層が火山灰層を被覆している場合もある。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹が生育しており、成長は良好である。林業的な生産力は高く、スギ・ヒノキの造林に適している。

(4) 乾性褐色森林土

ア 乾性褐色森林土壌

大黒目山1統 (Oku-1)

花崗岩類を母材とする乾性の褐色森林土である。東城町内掘、竹森、粟田三和町時安等の山地の尾根部に小面積出現する。A₀層が厚く、菌糸網層を形成することもある。A層は薄く、腐植の浸透は進んでいない。土質は埴質壤土で半角礫を含む。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹林となっていることが多いが、成長はやや不良である。

川北1統 (Kwa-1)

流紋岩類を母材として、開析の進行した山地の尾根部から中腹にかけて分布する乾性の褐色森林土である。油木町新免、小野、安田、三和町小島、時安等において出現する。腐植に富む薄いA層を持つが、下層への腐植の浸透は少ない。土性は埴質壤土～埴土で、下層は堅密である。アカマツやコナラなどの広葉樹が生育しているが、その成長はやや不良である。

田鋤1統 (Tas-1)

安山岩類を母材として、山地の尾根部から中腹にかけて分布する乾性褐色森林土である。油木町新免、豊松村笹尾、下豊松等において出現する。A層は腐植を含むが薄く、下層への腐植の浸透はやや少ない。土性は埴質壤土で、下層は石礫に富む。アカマツ、コナラ等の成育はやや良好であり、ヒノキの造林も可能である。

庄原1統 (Sho-1)

第三紀層を母材として、丘陵地に広く分布する乾性褐色森林土である。東城町川東、油木町油木、三和町井関等で小面積出現する。A層は腐植に富むが薄い。土性は埴質壤土で、A、B層とも比較的軟質である。アカマツの成育は中程度である。

始終1統 (Sis-1)

古生層粘板岩類，チャートを母材として，開析の進行した山地の尾根部に分布する乾性褐色森林土である。東城町川西，油木町油木，三和町亀石等で出現する。A層は腐植に富むが薄い。土性は埴質壤土で，全体に角礫を含む。アカマツの成育は比較的良好で，ヒノキの造林も可能である。

帝釈1統 (Tai-1)

石灰岩を母材として，山地の尾根部に分布する乾性褐色森林土である。東城町久代，三和町青滝等において小面積出現する。A層は腐植に富み，比較的厚い。土性は埴質壤土で，下層は礫を含み堅密である。アカマツだけでなく，ヒノキ，スギ人工林の成育も良好である。

イ 乾性褐色森林土壌（赤褐色）

大黒目山2統 (Oku-2)

花崗岩類を母材として，標高600m程度の山地の尾根部に分布する残積性の乾性褐色森林土で，土色が赤褐色（5YR）を呈するものである。東城町東谷等で小面積出現する。A層は腐植に富むが比較的薄く，土層全体も薄い。下層への腐植の浸透も不良である。アカマツ，コナラ等が成育しているが，その成育は不良である。

双三1統 (Fut-1)

流紋岩類を母材として，山地や丘陵地の尾根部に分布する乾性褐色森林土で，土色が赤褐色（5YR）を呈するものである。三和町時安等で小面積出現する。A層は腐植を含むが薄く，下層への腐植の浸透はほとんどない。土性は埴質壤土～埴土で，下層は石礫に富む。アカマツが成育しているが，その成長は不良である。

小国1統 (Ogu-1)

安山岩類を母材として，山地や丘陵地の尾根部の平坦面に分布する乾性褐色森林土で，土色が赤褐色（5YR）を呈するものである。東城町新免，豊松村下豊松において出現する。A層は腐植を含むが薄く，下層への腐植の浸透はほとんどない。土性は埴土～埴質壤土で，下層は石礫に富む。アカマツ，コナラ等が成育するが，その成長は中程度である。

尾道統 (Ono)

第三紀層，第四紀堆積物を母材として，丘陵地の平坦面に分布する乾性褐色森林土で，土色が赤褐色（5YR）を呈するものである。油木町油木において小面積出現する。A層は腐植を含み比較的厚いが，下層への腐植

の浸透は少ない。土性は埴質壤土で、下層は円礫に富む。クヌギ、コナラ等が成育しているが、その成育はやや不良である。

豊栄1統 (Toy-1)

古生層粘板岩類を母材として、未開析の丘陵地や山地の尾根部の平坦面に分布する乾性褐色森林土で、土色が赤褐色(5YR)を呈するものである。油木町当川内、油木町与那志、三和町亀石等で小面積出現する。A層は腐植を含むが薄く、下層への腐植の浸透もほとんどない。土性は埴質壤土で、角礫を含む。アカマツ、コナラ等が成育するが、その成育はやや不良である。

帝釈2統 (Tai-2)

石灰岩を母材として、山地の尾根部に分布する乾性褐色森林土で、土色が赤褐色(5YR)を呈するものである。東城町新免、重松谷、神石町日南等で小面積出現する。A層は腐植に富みやや厚い。土性は埴質壤土～砂質壤土で、下層は石礫に富む。クヌギ、コナラ等の広葉樹林となっているが、その成育はやや良好である。

ウ 乾性褐色森林土壌(黄褐色系)

横谷1統 (Yko-1)

花崗岩類を母材として、山地の尾根部に分布する残積性の乾性褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。東城町内堀、千鳥、小串、粟田等でわずかに出現する。A層は厚く、特に厚いF層を有する。逆にA層は薄く、下層への腐植の浸透も不良である。土性は砂質壤土で、下層は堅密である。表層に菌糸網層を伴うこともある。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹が生育しているが、その成長はやや不良である。

撫白山1統 (Nad-1)

流紋岩類を母材として、山地の尾根から中腹にかけて分布する乾性褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。東城町千鳥、油木町小野、安田、三和町井関、上野等において出現する。A層は比較的薄く、下層への腐植の浸透は少ない。土性は砂質壤土で、A、B層には小、中半角礫が含まれる。表層に菌糸網層が散見されることがある。アカマツやコナラなどの広葉樹が生育しているが、その成長はやや不良である。

檜村1統 (Hin-1)

安山岩類を母材として、開析の進行した山地の尾根から中腹にかけて分

布する乾性褐色森林土で、土色が黄褐色（10YR）を呈するものである。油木町岡，田頭，豊松村笹尾，下豊松等で出現する。表層は腐植を含むが薄く，下層への腐植の浸透も不良である。土性は埴質壤土で，比較的軟質である。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹が生育するがその生育はやや不良である。

敷地1統 (Shk-1)

第三紀層，第四紀堆積物を母材として，丘陵地の尾根部に分布する乾性褐色森林土で，土色が黄褐色（10YR）を呈するものである。東城町戸宇，川東，為重谷，油木町小吹，豊松村上豊松，三和町井関等において出現する。A層は腐植を含むが薄く，下層への腐植の浸透も不良である。土性は砂質壤土で，比較的軟質であり，円礫に富む。アカマツ，コナラ等が成育するが，その成長は中程度である。

宇根山1統 (Une-1)

古生層粘板岩類を母材として，開析の進行した山地の尾根部に分布する乾性褐色森林土で，土色が黄褐色（10YR）を呈するものである。油木町岡，油木，安田，豊松村上野，福山市島串等において小面積出現する。A層は腐植を含むが薄く，下層への腐植の浸透も不良である。土性は埴質壤土で，比較的軟質である。下層は半角礫を含む。アカマツ，コナラ等が成育するが，その成長は中程度である。

(5) 褐色森林土

ア 褐色森林土壌

大黒目山3統 (Oku-3)

花崗岩類を母材として，大黒目山1統と同一地域の山地の中腹から谷部に分布する褐色森林土である。A層は腐植に富み，団粒状構造を示す。土層は厚く，下層への腐植の浸透も良好である。土性は埴質壤土～砂質壤土で，下層は石礫に富む。アカマツやコナラなどの広葉樹が生育するが，ヒノキの造林も可能である。

川北2統 (Kwa-2)

流紋岩類を母材として，川北1統と同一地域の山地の中腹から谷部に分布する褐色森林土である。A層は腐植に富み，比較的厚い。下層への腐植の浸透は良好で，土層全体も厚い。土性は埴質壤土である。主としてコナ

ラ・クヌギなどの広葉樹が生育しており、その成長は良好である。同様にスギ・ヒノキの造林木の成長も良好で、造林に適している。

田鋤2統 (Tas-2)

安山岩類を母材として、田鋤1統と同一地域の山地斜面や谷部に分布する褐色森林土である。A層は腐植に富み、比較的厚い。下層への腐植の浸透は良好で、土層全体も厚い。土性は埴土で比較的軟質である。下層は半角礫に富む。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹が生育しており、その成長は良好である。同様にスギ・ヒノキの造林木の成長も良好で、造林に適している。

神石1統 (Jin-1)

硯石層を母材として、山地の中腹から谷部にかけて広く分布する褐色森林土である。豊松村下豊松、上豊松、上野、三和町青滝等において出現する。A層は腐植に頗る富み、下層への腐植の浸透も良好である。土性は埴土で比較的軟質である。下層は角礫に富む。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹が生育しており、その成長は良好である。同様にスギ・ヒノキの造林木の成長も良好で、造林に適している。

白滝山2統 (Shr-2)

変はんれい岩、蛇紋岩、かんらん岩を母材として、東城町持丸、粟田等の山地の中腹に広く分布する褐色森林土である。A層は腐植に富み厚い。下層への腐植の浸透も良好である。土性は埴質壤土で半角礫を含み、下層まで比較的軟らかい。広葉樹の成育は良好で、スギ・ヒノキの造林に適している。

庄原2統 (Sho-2)

第三紀層を母材として、山地の谷部に分布する褐色森林土である。庄原1統と同一地域で出現する。A層は腐植に富み、下層への腐植の浸透も比較的良好である。土性は埴土で軟らかい。アカマツやコナラなどの広葉樹の生育が良好であり、ヒノキの造林も可能である。

始終2統 (Sis-2)

古生層粘板岩類を母材として、山地斜面や谷部に分布する褐色森林土である。始終1統と同一地域で出現する。A層は腐植に富み、下層への腐植の浸透も良好で土層全体も厚い。土性は埴土で比較的柔らかい。コナラ・クヌギなどの広葉樹の生育は比較的良好で、スギ・ヒノキの造林にも適している。

帝釈3統 (Tai-3)

石灰岩を母材として、山地の中腹から谷部に分布する褐色森林土である。帝釈1統および帝釈2統と同一地域で出現する。A層は腐植に頗る富み、厚い。下層への腐植の浸透も良好である。土性は埴土～埴質壤土で軟質である。コナラ・クヌギなどの広葉樹の生育は比較的良好で、スギ・ヒノキの造林にも適している。

横山統 (Yok)

玄武岩を母材として、山地の斜面に分布する褐色森林土である。油木町八鳥、仙養ヶ原、豊松村米見山等で小面積出現する。A層は腐植に富むが、下層への腐植の浸透はやや少ない。土性は埴質壤土で軟質である。コナラ・クヌギなどの広葉樹の生育は比較的良好で、スギ・ヒノキの造林にも適している。

イ 褐色森林土壌 (赤褐色系)

世羅2統 (Ser-2)

花崗岩類を母材とする褐色森林土で、土色が赤褐色 (5 Y R) を呈するものである。東城町東谷、三和町時安等で小面積出現する。A層は腐植に富み、下層への腐植の浸透も良好で、土層全体も厚い。土性は埴土で比較的軟質である。コナラ・クヌギなどの広葉樹の生育は比較的良好で、スギ・ヒノキの造林にも適している。

小国2統 (Ogu-2)

流紋岩類を母材とする褐色森林土で、土色が赤褐色 (5 Y R) を呈するものである。小国1統と同一地域の山地の中腹に小面積出現する。A層は腐植に富むが、比較的薄い。下層への腐植の浸透もやや少ない。土性は埴土～埴質壤土で、下層は比較的堅密である。アカマツ、コナラ等が生育しているが、その生育は中程度である。

神石2統 (Jin-2)

硯石層を母材とする褐色森林土で、土色が赤褐色 (5 Y R) を呈するものである。神石1統と同一地域の山地の尾根部から中腹にかけて出現する。A層は腐植に富み、下層への腐植の浸透も良好である。土性は埴質壤土で、下層は半角礫に富み比較的堅密である。アカマツ、コナラ等の生育は比較的良好である。

羅漢山2統 (Rak-2)

変はんれい岩，蛇紋岩，かんらん岩を母材とする褐色森林土で，土色が赤褐色（5 Y R）を呈するものである。東城町栗田において小面積出現する。A層は腐植を含み，下層への腐植の浸透も良好で，土層全体も厚い。土性は埴質壤土で，下層は半角礫に富む。スギ，ヒノキの造林適地である。

始終3統（Sis-3）

古生層粘板岩類を母材する褐色森林土で，土色が赤褐色（5 Y R）を呈するものである。東城町焚火山，油木町門田原，三和町小畠において小面積出現する。A層は腐植に富み，下層への腐植の浸透も良好で，土層全体も厚い。土性は埴土で，比較的軟質である。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹林となっていることが多く，その成長は比較的良好である。スギの造林も可能である。

ウ 褐色森林土壌（黄褐色系）

横谷2統（Yko-2）

花崗岩類を母材として，横谷1統と同一地域の山地の中腹から谷部にかけて広く分布する褐色森林土で，土色が黄褐色（10 Y R）を呈するものである。A層は腐植に富み，下層への腐植の浸透も良好である。A層は埴質壤土で比較的柔らかい。下層は砂質で半角礫に富む。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹林となっていることが多く，その成長は比較的良好である。ヒノキの造林も可能である。

撫臼山3統（Nad-3）

流紋岩類を母材として，撫臼山1統と同一地域の山地の中腹から谷部にかけて広く分布する褐色森林土で，土色が黄褐色（10 Y R）を呈するものである。A層は腐植に富み厚い。下層への腐植の浸透も比較的良好で，土層全体も厚い。土性は埴質壤土で下層は角礫に富む。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹が生育しており，その成長は良好である。スギ・ヒノキの造林に適している。

檜村3統（Hin-3）

安山岩類を母材として，檜村1統と同一地域の山地中腹の斜面から谷部にかけて分布する褐色森林土で，土色が黄褐色（10 Y R）を呈するものである。A層は腐植に富んでおり，下層への腐植の浸透も比較的良好である。土性は埴質壤土で下層は角礫に富む。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹が生育しており，その成長は良好である。ヒノキの造林に適している。

敷地2統 (Shk-2)

敷地1統と同一地域の山地の中腹から谷部にかけて分布する褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。A層は腐植に富むが薄く、下層への腐植の浸透はやや少ない。土質は砂質土～砂土で、下層は円礫に富む。アカマツ、コナラ等が成育しているが、その成育は中程度である。

宇根山3統 (Une-3)

宇根山1統と同一地域の山地の中腹から谷部にかけて広く分布する褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。A層は腐植に富み、比較的厚く、下層への腐植の浸透も良好で土層全体も厚い。土質は埴質壤土で、半角礫を含む。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹が生育しており、その成長は良好である。スギ・ヒノキの造林に適している。

(6) 赤色土

ア 赤色土壌

岡田山統 (Oka)

母材とは関係なく、標高500mの未開析の丘陵地や山頂平坦面に分布する赤色土で、土色が赤色(2.5YR)を呈するものである。豊松村油屋上、油屋下において小面積出現する。A層は薄く、下層への腐植の浸透はほとんどない。土層全体が薄く、堅密である。土性は埴土である。アカマツが成育しているが、その成育は一般に不良である。

各土壌統の代表地点及び断面柱状図は「土壌図」に記載した。

広島県立林業試験場 升原一介
" 涌嶋 智

2 台地、低地地域の土壌（農地土壌）

(1) 黒ボク土

本土壌は火山放出物の風化堆積層上部に暗褐色ないし黒色を呈する非泥炭質の腐植が集積したものである。腐植層の厚さは普通25～50cmの範囲にあるが、50cm以上の厚層のものも珍しくなく、100cmを越える場合もある。

ア 厚層多腐植質黒ボク土

畑谷統

本土壌は腐植層の厚さが50cm以上で、腐植含量が10%以上の風積性の土壌である。主要土層の土性は強粘～粘質である。本図幅の三和町に分布する。

イ 表層多腐植質黒ボク土

藤沢統 (Fsw)

本土壌は腐植層の厚さがほぼ25～50cmで、腐植含量が10%以上の風積性の土壌である。主要土層の土性は強粘～粘質である。本図幅の三和町に分布する。

ウ 表層腐植質黒ボク土

俵坂統 (Twr)

本土壌は腐植層の厚さがほぼ25～50cmで、腐植含量が5～10%の風積性の土壌である。主要土層の土性は強粘～粘質で、土色は黄色である。本図幅の東城町、三和町に分布する。

大川口統 (0kg)

本土壌は俵坂統に類似するが、次表層位の土色が黄褐色を呈することにより俵坂統と区別される。本図幅の東城町に分布する。

飯館統 (ldt)

本土壌は大川口統に類似するが、堆積様式が崩積あるいは洪積であることにより大川口統と区別される。本図幅の東城町に点在する。

(2) 多湿黒ボク土

本土壌は全層腐植質（あるいは多腐植質）火山灰層からなるか、表層（および次表層）が腐植質（あるいは多腐植質）火山灰層からなるか、全層もしくはほぼ全層が非腐植質火山灰層からなる土壌であって、土層中に斑紋（ときにはマンガン結核）が存在する土壌である。堆積様式は水積または風積で、ときに崩積の場合もある。本土壌は沖積低地、谷底地や台地、丘陵地内の凹

地などに分布している。

ア 厚層腐植質多湿黒ボク土

深井沢統 (Fki)

本土壤は黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さは50cm以上で、腐植含量は5～10%である。主要土層の土性は強粘～粘質である。本図幅の東城町に分布する。

高松統 (Tkm)

本土壤は深井沢統に類似するが、主要土層の土性が壤(砂)質であることにより深井沢統と区別される。本図幅の東城町に分布する。

イ 表層腐植質多湿黒ボク土

三輪統 (Miw)

本土壤は黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さはほぼ25～50cmで、腐植含量は5～10%である。主要土層の土性は強粘～粘質で、次層は灰～灰褐色を呈する水積性の土壤である。本図幅の北部、東城町千鳥に分布する。

鹿畑統 (Kab)

本土壤は黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さはほぼ25～50cmで、腐植含量は5～10%である。主要土層の土性は壤(砂)質で、次層は黄～黄褐色を呈する水積性の土壤である。本図幅の北部、東城町内堀に分布する。

(3) 黒ボクグライ土

本土壤は全層腐植質(あるいは多腐植質)火山灰層からなり、全層または作土を除くほぼ全層、あるいは下層がグライ化しているか、表層(および次表層)が腐植質(あるいは多腐植質)火山灰層からなり、下層が無機質グライ層からなる土壤で、腐植層は一部または全部がグライ化している場合がある。土層中に斑紋が存在する。堆積様式は水積で、ときに風積、崩積の場合もある。本土壤は沖積低地、谷底地や台地、丘陵地内の凹地などに分布している。

ア 腐植質黒ボクグライ土

岩屋谷統 (Iwy)

本土壤は黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さは50cm以上で、腐植含量は5～10%である。主要土層の土性は強粘～粘質の水積(風積・崩積)性の土壤で、全層または作土を除くほぼ全層がグライ化している。本図幅の全域に分布する。

藤間統 (Fjm)

本土壤は黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さはほぼ25～50cmで、腐植含量は5～10%である。主要土層の土性は壤（砂）質で、下層が無機質グライ層からなる土壤である。本図幅の北部、東城町粟田に分布する。

(4) 褐色森林土

本土壤は暗褐色の表層をもち、その下に黄褐色の次表層がある。母材は固結堆積岩、固結火成岩などで、堆積様式は残積、洪積世堆積、崩積である。分布する地形は山麓、丘陵地の斜面および台地上の平坦地である。

ア 細粒褐色森林土

貝原統 (Kib)

本土壤は主に固結堆積岩に由来する残積性の土壤で、主要土層の土性は強粘質で、土色は黄褐色を呈する。次表層の反応は弱酸性である。本図幅の油木町、三和町および豊松村に分布する。

上統 (Kmi)

本土壤は主に固結堆積岩に由来する残積性の土壤で、主要土層の土性は粘質で、土色は黄褐色を呈する。次表層の反応は弱酸性である。本図幅の全域に点在する。

(5) 灰色台地土

本土壤は主として台地、丘陵地に分布し、全層またはほぼ全層が灰色ないし灰褐色を呈する土壤である。一般に土層中に斑紋が存在する土壤である。母材は一定しないが、堆積様式は残積、崩積および洪積世堆積である。

ア 細粒灰色台地土

小向統 (Kmk)

本土壤は残積（崩積）性あるいは洪積世堆積性の土壤である。主要土層の土性は強粘質で、土色は灰～灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在するが、マンガン結核は存在しない。本図幅の油木町、豊松村に点在する。

江迎統 (Emk)

本土壤は小向統に類似するが、土層中にマンガン結核が存在することにより小向統と区別される。本図幅の東城町、油木町および三和町に分布する。

喜久田統 (Kik)

本土壤は残積（崩積）性あるいは洪積世堆積性の土壤である。主要土層

の土性は粘質で、土色は灰～灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在するが、マンガン結核は存在しない。

本図幅の三和町に分布する。

(6) グライ台地土

本土壤は主として台地、丘陵地に分布し、全層もしくは作土を除くほぼ全層がグライ層からなるか、または次表層は灰色ないし灰褐色の土層からなり、下層がグライ層からなる土壤である。母材は一定せず、堆積様式は残積、崩積および洪積世堆積など多岐にわたる。

ア 細粒グライ台地土

吉井統 (Yos)

本土壤は全層または作土を除くほぼ全層がグライ層からなる土壤である。主要土層の土性は強粘質である。本図幅の東城町、油木町および豊松村に分布する。

滝川統 (Tkk)

本土壤は土層50cm内外より下部がグライ層となるかあるいは上層50cm以内に厚さ20cm以上のグライ層が存在する土壤である。主要土層の土性は強粘質である。本図幅の油木町に点在する。

橋本統 (Hms)

本土壤は土層50cm内外より下部がグライ層となるかあるいは上層50cm以内に厚さ20cm以上のグライ層が存在する土壤である。主要土層の土性は粘質である。本図幅の油木町に点在する。

(7) 黄色土

本土壤は主として丘陵地、台地およびその斜面に分布し、全層またはほぼ全層が黄色（黄褐色）を呈する土壤で、堆積様式は残積あるいは洪積世堆積である。

ア 細粒黄色土

大原統 (Ohr)

本土壤は残積性の土壤で主要土層の土性は強粘質である。土色は黄色を呈する。次表層の反応は弱酸性である。本図幅の油木町、三和町および豊松村に分布する。

イ 細粒黄色土、斑紋あり

北多久統 (Kit)

本壤は全層あるいは作土を除くほぼ全層が黄～黄褐色を呈する土壤で、作土あるいは作土下に斑紋をもつ土壤である。主要土層の土性は強粘質で、土層中にマンガン結核が存在する。本図幅の東城町、油木町および三和町に分布する。

新野統 (Art)

本壤は全層あるいは作土を除くほぼ全層が黄～黄褐色を呈する土壤で、作土あるいは作土下に斑紋をもつ土壤である。主要土層の土性は粘質で、土層中にマンガン結核が存在する。本図幅の東城町に分布する。

ウ 中粗粒黄色土、斑紋あり

都志見統 (Tsm)

本土壤は全層あるいは作土を除くほぼ全層が黄～黄褐色を呈する土壤で、作土あるいは作土下に斑紋をもつ土壤である。主要土層の土性は壤質である。本図幅の東城町に分布する。

(8) 灰色低地土

本土壤は沖積低地に分布し、全層あるいはほぼ全層が灰色ないし灰褐色を呈する土壤であるが、下層に腐植質火山灰層、泥炭層および黒泥層などが埋没したものも含まれる。地下水位の変動や水田利用の結果、土層中に斑紋や結核をもつことが多い土壤である。

ア 細粒灰色低地土、灰色系

藤代統 (Fjs)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壤で、主要土層の土性は粘質で、土色は灰色を呈する。土層中に斑紋が存在する。本図幅の全域に分布する。

イ 中粗粒灰色低地土、灰色系

加茂統 (Km)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壤で、主要土層の土性は壤質で、土色は灰色を呈する。土層中に斑紋が存在する。本図幅の東城町に分布する。

ウ 礫質灰色低地土、灰色系

久世田統 (Kus)

本土壤は土層30～60cm以内より下部が礫層となる水積性の土壤で、土色

は灰色を呈する。礫層ならびに礫層上部の土性は強粘～粘質である。土層中に斑紋が存在する。本図幅の三和町に点在する。

追子野木統 (Okk)

本土壌は土層30～60cm以内より下部が礫層となる水積性の土壌で、土色は灰色を呈する。礫層ならびに礫層上部の土性は壤～砂質である。土層中に斑紋が存在する。本図幅の油木町に分布する。

国領統 (Kok)

本土壌は土層0～30cm以内より下部が礫層となる水積性の土壌で、土色は灰色を呈する。土性は多岐にわたるが、一般に壤質である。土層中に斑紋が存在する。本図幅の油木町に分布する。

エ 中粗粒灰色低地土、灰褐色系

安来統 (Ysk)

本土壌は非固結堆積岩に由来する水積性の土壌で、主要土層の土性は壤質で、土色は灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在する。本図幅の東城町に分布する。

オ 礫質灰色低地土、灰褐色系

松本統 (Mtm)

本土壌は土層30～60cm以内より下部が礫層となる水積性の土壌で、土色は灰褐色を呈する。礫層ならびに礫層上部の土性は壤～砂質である。土層中に斑紋が存在する。本図幅の東城町に分布する。

栢山統 (Kay)

本土壌は土層0～30cm以内より下部が礫層となる水積性の土壌で、土色は灰褐色を呈する。土性は多岐にわたるが、一般に壤質である。土層中に斑紋が存在する。本図幅の東城町に分布する。

(9) グライ土

本土壌は沖積低地に分布し、全層もしくはほぼ全層がグライ層からなるか、次表層がグライ層からなり、泥炭、黒泥または腐植質火山灰の埋没土層をもつか、あるいは次表層は灰色土層からなり、下層はグライ層からなる土層などを含んでいる。一般に表層腐植層はない。母材は非固結堆積岩が主であるが、ときに下層が植物遺体、非固結火成岩の場合がある。

ア 細粒強グライ土

西山統 (Nsh)

本土壤は全層もしくはほぼ全層がグライ層からなる土壌で、主要土層の土性は粘質である。土層の上部30cm以内に斑紋が存在する。本図幅の東城町、油木町および豊松村に分布する。

イ 細粒グライ土

保倉統 (Kaw)

本土壤は土層50cm内外より下部がグライ層からなる土壌である。主要土層の土性は強粘質で、土層中に斑紋が存在する。

本図幅の三和町、豊松村に分布する。

広島県立農業技術センター 谷本俊明

IV 水系及び谷密度図

1 水系

本地域は、広島県の北東端、岡山県との県境に位置する。五万分の一の図幅名では、北から南へ「上石見」、「新見」、「油木」の三図幅から構成されている。この三図幅内の水系のほとんどは、岡山県倉敷市の西側で瀬戸内海に流入する高梁川流域に入り、とくにその支流である成羽川、東城川、小田川の流域に入っている。それ以外の流域としては、南部地域で福山平野に注ぐ芦田川水系がある。

またこの地域の地形は、北側に中国山地の背梁部を構成する侵食小起伏面の高位面と中位面に相当する吉備高原面、その中でも豊松面と呼ばれる地形面が高度500-700m付近によく発達している。さらにその南側に、同じく中位面の油木面が定高性のある地形面として高度450-550m付近に発達している。

こうした面を穿つ谷には、急勾配の谷壁斜面が発達している。次に、地域別に北から水系を中心にながめてみよう。北端の「上石見」図幅では、西隣の「多里」図幅の道後山に続く三国山山地 (Ia) や寺ヶ成山山地 (Ib)、900mから1,000mを越える中国山地の脊稜部をつくる侵食小起伏面の高位面からなっている。この脊稜部を流れる河川は、南南西～南へ流下する小足谷川、藪谷川、頭地川が並走し、いずれも東城川の上流部となっている。その南の「新見」図幅の北側には、多飯が辻山山地 (Ic) をはじめとして高位面が分布している。これを浅く切り込み谷壁斜面も緩い頭地川、およびその下流の粟田川が南流し、東城の数キロ上流側の比奈と宮平付近で成羽川に合流する。

このあたりでは、中位面の高度と谷底との比高は、200mほどである。成羽川は、東城の町を過ぎたあたりから、わずかに穿入蛇行しながら南ないし南南東へ流下し、中位面の宇山台地 (IIIa) を下刻している。ここでは谷壁斜面は急傾斜で狭い谷となっている。この宇山台地 (IIIa) は、西隣の「庄原」図幅から続く帝積峡をつくった石灰岩からなるカルスト台地で、高度500-550m付近にある。

成羽川は、油木の図幅に入ったあたり、すなわち新免山地 (If)・権現山山地 (Ig) とその南の油木山地 (Ih) と米見山山地 (Ij) との境界部で西流し、岡山県側に入る。成羽川本流の南側に位置する油木山地 (Ih) と米見山山地 (Ij)、

さらに宗兼山地(Ii)側は、成羽川へ流入する支流の天田川をはじめ北流して山地を開析している。さらにこれらの山地の南側の安田山地 (I1)と仙養山地 (Im)では、さらにその南の時安山地 (In)との地形区界を流れる高梁川水系の支流である小田川へ流入する支流によって開析されている。小田川は、時安山地の北縁を東流したあと、岡山県との県境をなす上野山地(Io)と時安山地との地形区界に沿って南流する。小田川はこのあと、南の「井原」図幅に入ってから南東流し、さらに岡山県との県境を越えると東流し、倉敷の周辺で高梁川に合流する。以上、「上石見」・「新見」・「油木」からなる本図幅の水系は、ほとんど高梁川水系に入っている。しかし、わずかながら、時安山地の西端近くの三和町亀石付近の小河川は、福山の方に注ぐ芦田川水系に入っており、このあたりがその分水嶺となっている。

水系網の方向性は、やはりこのあたりの中国山地をつくっている構造線の方向と調和的である。主な構造線の方向は、「上石見」・「新見」両図幅の範囲では、北東-南西方向とそれにほぼ直交する北西-南東方向が卓越している。例えば「新見」図幅の東城川の本流は、ほぼ北西-南東方向の構造線に沿って流下しており、それに合流する支流の方向は、北東-南西方向のものが多し。しかし、南側の「油木」図幅では、両構造線の斜交関係とともに、さらに両者が低角度で交差する方向も加わっている。成羽川と小田川の流路は、こうした構造線の特徴を反映している。

2 谷密度

谷密度は、第1図のグラフに示したとおりである。第1図からわかるように、谷密度数の頻度が高いのは、26-30と21-25の値に集中している。西となりの「頓原」・「多里」図幅では、36-40付近に値が集中していたのに比べると本図幅の谷密度数は低い値となっている。これは、本図幅の地域には、侵食小起伏面の吉備高原面が広く分布することと、流紋岩や石灰岩の分布が広いことも関係していると考えられる。第2図の谷密度数の空間分布図には、地形面の分布に対応して、谷密度数の値の低いところが分布していることが読み取れよう。

広島経済大学	藤原健蔵
東京都立大学理学部	堀信行
山口大学教育学部	前李英明
東京都立大学大学院	室伏多門

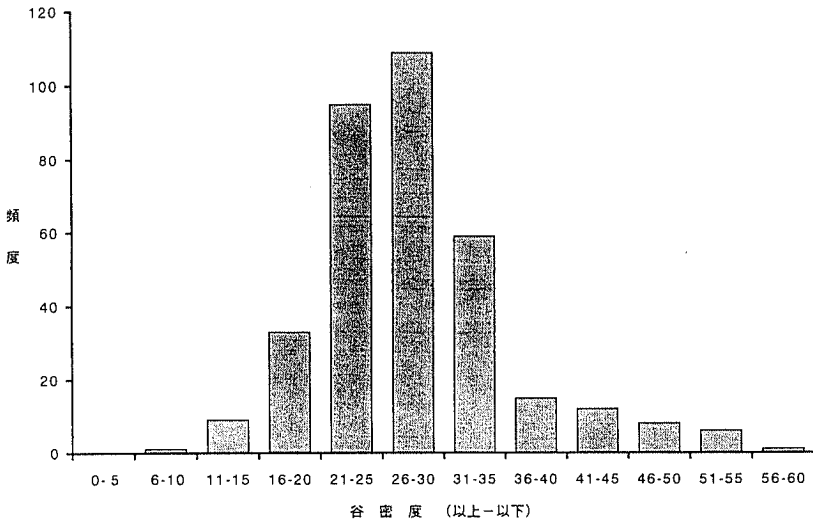


図4 「上石見」「新見」「油木」図幅の谷密度の段階別出現頻度

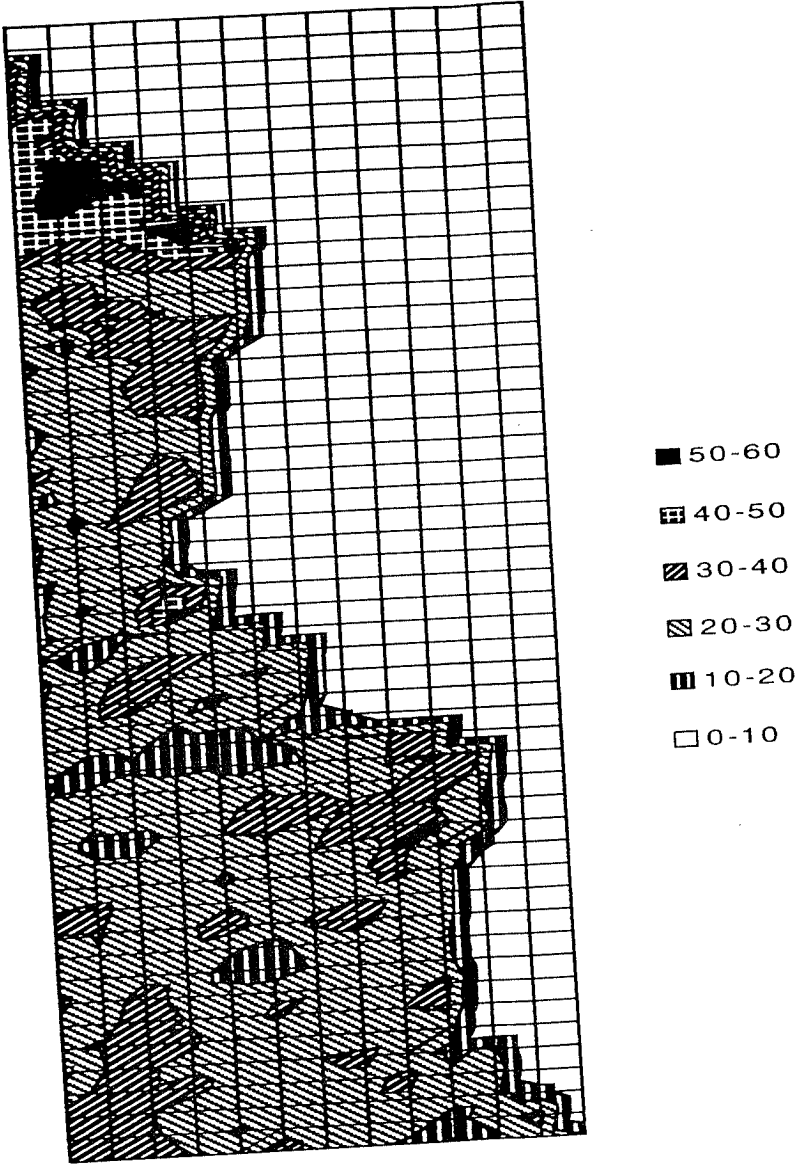


図5 「上石見」「新見」「油木」図幅の谷密度の空間分布

V 傾斜区分図

本図幅は広島県、島根県、岡山県3県の県境付近にあたり、大部分が山地及び高原からなっている。全地域が成羽川、田川の水域で、三和町、福山市、油木町の一部を除いては、成羽川の流域である。また、成羽川、田川両河川が深い谷を形成しており、高原に深い傷が入ったようになっている。

傾斜3度未満の流域は成羽川、田川及びそれら支流に沿い僅かに分布する。例外的に、東城町東城地区一帯には比較的広い緩い傾斜地が分布する。

傾斜3～8度の地域は、宇山野呂、飛田野呂、東城町竹森の野呂集落一帯等、本図幅で緩傾斜地を意味する野呂という地名一帯に分布する。その他には、油木町油木地区、有本地区、花の木地区、日野郷地区、三和町井関地区、東城町権現山山麓、小串地区、清水地区、所尾地区等に分布する。

傾斜8～15度の地域は油木町、三和町、豊松村に広く分布し、高原状の平坦面を示している。東城町藤野呂、豊松村野呂川等の緩傾斜を示す地名が見られる。

傾斜15～20度の地域は、油木町、三和町、豊松村に広く分布し、高原状の平坦面を示している。この地域は高原状の平坦面がやや浸食されており、傾斜8～15度の地域を囲むように分布する。

傾斜20～30度の地域は、東城町北部、成羽川、田川の本・支流沿いに傾斜30～40度の地域の外縁に分布する。これらは、高原が成羽川、田川両河川に浸食されて形成された地域である。

傾斜30～40度の地域は成羽川、田川の本流及びそれら支流の河谷に面した斜面に広く分布するほかは、図幅北部の大飯が辻山、野田大山、古頃山、三国山の山麓に部分的に分布する。

傾斜40度以上の急傾斜地は成羽川、田川の本流部の峡谷部に僅かに分布しているにすぎない。

広島経済大学	藤原健蔵
東京都立大学理学部	堀信行
山口大学教育学部	前杵英明
広島大学大学院	細矢卓志

VI 土地利用現況図

1 林地

「上石見」「新見」「油木」図幅の森林は、主に広葉樹天然林と針葉樹人工林から構成されており、全体の77%を占めているが、マツを主体とする針葉樹天然林は、全県に比べて低く19%となっている。

この地域の森林は、民有林が92%を占め、国有林はわずか8%にすぎないが、国有林を中心に人工造林が積極的に進められており、木材生産地帯として期待されている。また、高梁川上流に位置していることから、水資源のかん養、国土の保全等にも重要な役割を果たしている。

特に、北部から中部にかけては優良林業地域となっており、コナラ、クヌギ、クリ等を主体とした広葉天然樹林に、優良生産を目指して敵地に植栽されたスギ、ヒノキ等の針葉樹人工林が介在している。

広葉樹天然林は42%を占めており、景観の保全形成、野生動植物の保護等を担っているが、広葉樹林に対する評価が見直されており、今後は、公益的機能の高度発揮に配慮した広葉樹林の計画的な造成による多様な森林の整備と保護保全対策が必要である。

一方、針葉樹人工林は37%を占めており、県平均の30%を上回っている。この人工林は、21世紀にはやがて伐採時期を迎えるが、現在、その約7割が間伐等の手入れが必要な15年～35年生の人工林である。

近年、木材価格の低迷、森林所有者の経営意欲の減退、担い手不足などにより、手入れ不足の森林が増加しており、今後、人工林資源の充実と併せて、水資源のかん養、国土の保全等の機能を高度に発揮するために、間伐等の適当な施業を推進する必要がある。

なお、本地域の南部には、アカマツを主体とする針葉樹天然林が広く分布しているが、松くい虫被害が次第に広がっており、計画の保全、国土の保全、災害の防止等の観点から、駆除対策の強化や樹種転換等により健全で活力のある森林の整備が必要である。

表-13 森林面積構成比

	(%)				
	針葉樹		広葉樹		その他
	天然林	人工林	天然林	人工林	
油木町	20	31	45	0	4
豊松村	20	34	33	0	12
神石郡三和町	49	28	21	1	2
東城町	4	43	50	0	2

資料：広島県林政課「江の川上流地域森林計画書」（平成8年4月1日）

“ 「瀬戸内地域森林計画書」（平成4年4月1日）

大阪営林局 「高梁川上流国有林の地域別の森林計画書」

（平成8年4月1日）

「瀬戸内国有林の地域別の森林計画書」

（平成4年4月1日）

広島県林務部林政課 吉田昌時

“ 角谷弘美

2 農地

本図幅には神石郡豊松村の全域と神石郡油木町のほぼ全域ならびに比婆郡東城町、神石郡三和町の一部と福山市、神石郡神石町のごく一部が含まれる。本図幅内ではまとまった広がりを持った農地はみられず、いずれの市町村においても狭小な谷間に樹枝状に水田が分布している。水田では、湿田、半湿田の占める割合が高い。油木町、豊松村では普通畑の面積割合が高く、河川沿いの山麓から山腹斜面に分布している。樹園地は少なく、豊松村、油木町、東城町および三和町の樹園地の合計面積は75haにすぎない。

豊松村の耕地面積は493haで、そのうち田が52%、普通畑が44%を占めており、本図幅内の市町村の中では普通畑の割合が最も高く、田の割合が最も低い。豊松村では、トマトやこんにゃくの栽培が盛んで、農業粗生産額に占める野菜の割合は32%、工芸作物の割合は13%で、この両方で農業粗生産額の約半分を占める。また、肉用牛の生産も盛んである。

油木町の耕地面積は664haで、そのうち田が55%、普通畑が39%を占めており、豊松村に次いで普通畑の割合が高く、こんにゃくや葉たばこの栽培が盛ん

である。農業粗生産額に占める工芸作物の割合は15%で、本図幅内の市町村の中では最も高い。また、肉用牛の生産も盛んである。

東城町の耕地面積は2,057haで、そのうち田が80%、普通畑が10%を占めており、本図幅内の市町村の中では田の割合が最も高い。鶏卵や肉用牛の生産が盛んで、農業粗生産額に占める畜産の割合は71%と高い。次いで米の23%である。三和町の耕地面積は992haで、そのうち田が70%、普通畑が23%を占めている。三和町も東城町同様に農業粗生産額に占める畜産の割合が高く（60%）、鶏卵、生乳あるいは肉用牛の生産が盛んである。米の農業粗生産額に占める割合は32%である。

表-14 耕地面積（平成6年）

町村	(ha)				
	田	普通畑	樹園地	牧草地	合計
油木町	368	256	18	22	664
豊松村	257	217	10	9	493
柘那三崎	693	233	19	47	992
東城町	1,650	197	28	177	2,057

広島県立農業技術センター
谷本俊明

1997年3月 印刷発行

都道府県土地分類基本調査

上石見・新見・油木

編集発行 広島県県民生活部土地対策課

広島市中区基町10-52

TEL (082) 228-2111

印刷 株式会社 耕文社

TEL (082) 295-2040